

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

※

科目ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 基本リテラシー分野 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ English Oral Communication	1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
高等学校までの英語をもう一度、確認し、秋学期のオーラルコミュニケーションⅡ(発展・応用編)へスムーズにつながるように英語を指導します。(ベーシック)、(スタンダード)共に、英語の初歩を重視します ➡									
(ベーシック)：1 5 回の授業を通じて高等学校までの英語を再度、確認します。初歩から基礎までを集中して指導します。 (スタンダード)：1 5 回の授業を通じて高等学校までの英語を再度、確認します。基礎を学んだ後、標準的な演習問題に取り組みます。第 10 週目以降からは、英検準 2 級の問題にも取り組みます。									
具体的な授業内容は(ベーシック)、(スタンダード)、それぞれ、最初の授業で説明します。									
科目を学ぶことの意義・意味									
今の現代社会はグローバル化された社会と言われています。グローバル化された社会とは、国境を越えた人の交流が非常に活発になることと、と言えます。インターネットを通して、それは、非常に簡単になっています。ただ、異なる国々の人に自分の思っていること自分の気持ちを伝え、理解してもらうためには伝えるための手段が必要です。そこで、必要とされるのが世界共通語と言われている英語です。そのような役割を持っている英語の活用の仕方を学びます。さらに、このようなコミュニケーションを通じて、日本の国とは異なる生活習慣、物の見方、文化をも学ぶことができます。これは大変、有意義なことで、意味のあることだと思います。					キーワード	自分の気持ちを伝え、理解してもらうための英語 異文化理解			
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
この授業は講義ではなく、「演習」です。したがって、学生のみなさんが、主役となります。授業で提示される演習問題に積極的に取り組むことが要求されています。教員はみなさんが英語を活用できるようになるための単なる、アドバイザーにしかすぎません。演習問題を通じて、英語でコミュニケーションができる自信を付けてください。教員が演習しても、これは、全く意味がありません。教員の姿勢は英語学修のアドバイザーです。									
教科書				参考書・リザーブドブック					
My TGU.net の授業資料に教材を添付しています。				余白					
No.	学科教育目標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	心理の専門知識を身につける。								
②	心理の分析方法を身につける。								
③	心理カウンセリングの知識を身につける。								
④	心理カウンセリングの技法を身につける。								
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。					◎		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。					○		
達成度評価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評価割合		41		59					100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試験	全授業 15 回の総括としての定期試験を実施する。								
小テスト									
レポート	学期末課題(レポート)を提出すること。								
成果発表									
作品									
ポートフォリオ									
その他									

1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間 ※3
第1回 ／	テーマ：A difference between Japanese and English	講義・演習	○	学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第2回 ／	テーマ：Nouns	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第3回 ／	テーマ：Pronouns	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第4回 ／	テーマ：Be Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第5回 ／	テーマ：Ordinary Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第6回 ／	テーマ：Negative Sentences with Ordinary Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第7回 ／	テーマ：Past Tenses with Be Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第8回 ／	テーマ：Past Tenses with Ordinary Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第9回 ／	テーマ：Present Progressives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第10回 ／	テーマ：Modal Verbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第11回 ／	テーマ：Passives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第12回 ／	テーマ：Infinitives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第13回 ／	テーマ：Prepositions	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第14回 ／	テーマ：Comparatives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第15回 ／	テーマ：学期末課題について	講義・演習		学期末課題作成と提出の説明	1.5

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修（予習・復習等）に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本リテラシー分野 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ English Oral Communication Ⅱ	1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>春学期で学修した基礎知識を土台に、発展的な演習を試みます。秋学期はステップ・アップを目指して、発展レベルは英検 2 級までの英語に取り組みます。英検 2 級は大学 2 年生のレベルです。準 1 級は大学卒業レベルとなります。</p> <p>(基本レベル):第 9 週目までは春学期からの基礎学習を継続します。そして、第 10 週目以降は発展的な演習を試みます。 (標準レベル):発展的な演習から応用的な演習を試みます。第 10 週目以降は英検 2 級の演習問題にも取り組みます。</p> <p>具体的な授業内容は(基本レベル)、(標準レベル)、それぞれ、最初の授業で詳しく、説明します。 この授業を機会に、英検準 2 級、2 級、準 1 級のどれかにチャレンジしてみることも、大学 4 年間での大きな一つの目標になるのではと、と考えています。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
今の現代社会はグローバル化された社会と言われています。グローバル化された社会とは、国境を越えた人の交流が非常に活発になることと、と言えます。インターネットを通して、それは、非常に簡単になっています。ただ、異なる国々の人に自分の思っていること自分の気持ちを伝え、理解してもらうためには伝えるための手段が必要です。そこで、必要とされるのが世界共通語と言われている英語です。そのような役割を持っている英語の活用の仕方を学びます。さらに、このようなコミュニケーションを通じて、日本の国とは異なる生活習慣、物の見方、文化をも学ぶことができます。これは大変、有意義なことで、意味のあることだと思います。				キーワード	自分の気持ちを伝え、理解してもらうための英語 異文化理解					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
この授業は講義ではなく、「演習」です。したがって、学生のみなさんが、主役となります。授業で提示される演習問題に積極的に取り組むことが要求されています。教員はみなさんが英語を活用できるようになるための単なる、補助にしかすぎません。演習問題を通じて、英語でコミュニケーションができる自信を付けてください。教員が演習するのではありません、これは、全く意味がわかりません。教員の姿勢はみなさんが英語を活用することができるようになるための脇役です。授業というステージでは、みなさんが主役です。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
My TGU.net の授業資料に教材を添付しています。				なし						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。◎							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。○							
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			41		59					100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		全授業 15 回の総括としての定期試験を実施する。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト		学期末課題(レポート)を提出すること。								
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	テーマ：Adverbs	講義・演習	○	学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 2 回 ／	テーマ：Adjectives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 3 回 ／	テーマ：Causatives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 4 回 ／	テーマ：「It is A for B to C」 Constructions	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 5 回 ／	テーマ：Gerunds	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 6 回 ／	テーマ：Conjunctions	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 7 回 ／	テーマ：「There is」 Constructions	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 8 回 ／	テーマ：Participle Clauses	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 9 回 ／	テーマ：Subjunctives	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 10 回 ／	テーマ：Wh Interrogatives (who, which, why)	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 11 回 ／	テーマ：Wh Interrogatives (where, how,)	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 12 回 ／	テーマ：Relative Pronouns (who, that)	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 13 回 ／	テーマ：Relative Pronouns(which, whose)	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 14 回 ／	テーマ：Relative Adverbs	講義・演習	○	前回、学修した内容について、それに関係する発展的な演習問題を解く。	1.5
第 15 回 ／	学期末課題について	講義・演習		学期末課題作成と提出の説明	1.5

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修（予習・復習等）に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
		総合教養科目 基本リテラシー分野 数理・情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅠ Software LiteracyⅠ	1単位	必 修	演 習	1年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word の基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解しコマンドを使いこなして、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。 この科目は、学習者の習熟度に応じて授業のすすめ方を調整し、目標に到達できるよう支援する。										
科目を学ぶことの意義・意味										
コンピュータを使った文書作成能力を身につける第1歩となる。 「Microsoft Word」を用いて、文字入力や編集の基本を知り、文書の編集、印刷、作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成などを体験し、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につける。 この科目は、学習者の習熟度に応じて授業のすすめ方を調整し、科目の指導方針のそれぞれの目標に到達できるよう支援する。					キーワード	Word 文書の作成 Word®文書処理技能認定試験 MOS Word				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
（発展レベル）Word の基本操作を修得し、全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word®文書処理技能認定試験（サーティファイ）」や「MOS Word」のどちらか一方に合格することを目指す。技能確認のため、課題作成を行なう。また、Type Quick 検定はGOLD LEVEL（正 確率97%以上かつスピード50WPM）を目指す。 （標準レベル）Word の基本操作を修得し、全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word®文書処理技能認定試験（サーティファイ）」や「MOS Word」にも挑戦できる力をつけることを目標とする。また、Type Quick 検定はSILVER LEVEL（正確率95%以上 かつスピード30WPM）を目指す。 （基礎レベル）コンピュータの基本操作と入力に慣れ、日常よく使用する文書やレポート類を自分の力で作成できるようになることが目標である。日常的にパソコンを使用する時間を確保すること。また、Type Quick 検定はTYPEQUICK LEVEL（正確率93%以上 かつスピード20WPM）を目指す。 どのレベルにおいても、日常的にパソコンを使用すること、Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：	Word 2019 クイックマスター（基本編）			書 名：						
著者名：	ウィネット			著者名：						
出版社：	ウィネット			出版社：						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につける。					◎		
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作 品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメント等）	合 計
評 価 割 合			45						55	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		授業で学修したWord の基本操作、問題演習を通じて学んだことについての習熟度を学期末試験で評価する。 （学期末試験は課題に替えることがある。）								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		課題提出にて評価する。未提出物がないように注意すること。My TGU.net の掲示や、TGU e-Learning の課題の提出状況を毎授業後確認しておくこと。 理解度を確保するため、演習課題を行うことがある。授業で使用するTypeQuick（タイプ練習ソフト）の到達度を評価する。 それぞれの評価内容の詳細は、授業内で説明する。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

(発展レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 2 回 ／	コンピュータの基本操作、タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 3 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 8 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 9 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 10 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 11 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 12 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 13 回 ／	タイプクイック練習 （第 2 部）総合学習問題	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 14 回 ／	タイプクイック検定、プレースメントテスト	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	1.0
	課題				
第 15 回 ／	タイプクイック検定、プレースメントテスト、入力問題	講義、演習	○	復習：学期末テストに向けて	1.0
	最終課題				

(標準レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net）	講義、演習	○	復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 2 回 ／	タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 3 回 ／	タイプクイック Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 4 回 ／	タイプクイック 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 5 回 ／	タイプクイック 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 6 回 ／	タイプクイック 文書の編集（第 4 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 7 回 ／	タイプクイック 文書の印刷（第 5 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	小テスト				
第 8 回 ／	タイプクイック 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	小テスト				
第 9 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 10 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 11 回 ／	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章） 認定試験模擬演習	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 12 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬演習	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 13 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬演習	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 14 回 ／	タイプクイック 認定試験模擬問題仕上げ	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 15 回 ／	タイプクイッ 総合学習問題の解説と練習	講義、演習	○	復習：学期末テストに向けて	1.0
	課題				

(基礎レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	○	復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 2 回 ／	コンピュータの基本操作、タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 3 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 8 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 9 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 10 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 11 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 12 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 13 回 ／	タイプクイック練習 （第 2 部）総合学習問題	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 14 回 ／	タイプクイック検定、プレースメントテスト	講義、演習	○	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	1.0
	課題				
第 15 回 ／	タイプクイック検定、プレースメントテスト、入力問題	講義、演習	○	復習：学期末テストに向けて	1.0
	最終課題				

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。
学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本リテラシー分野 数理・情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ Software LiteracyⅡ	1単位	必 修	演 習	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>「Microsoft Excel」を用いて、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を体験し、活用できる能力を身につける。</p> <p>この科目は、学習者の習熟度に応じて授業のすすめ方を調整し、科目の指導方針のそれぞれの目標に到達できるよう支援する。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
コンピュータを使った文字データや数値データの取り扱いの基本を知り、データ処理に親しむ第1歩となる。 日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につけることができる。				キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 データベース Excel®表計算技能認定試験 MOS Excel					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
<p>（発展レベル）Excel の基本操作を修得し、全授業終了後に実施される「Excel®表計算処理技能認定試験（サーティファイ）」や「MOS Excel」のどちらか一方に合格することを目標とする。技能確認のため、課題作成を行なう。また、認定試験に合格できるように学習時間を確保すること。</p> <p>（標準レベル）Excel の基本操作を修得し、全授業終了後に実施される「Excel®表計算処理技能認定試験（サーティファイ）」や「MOS Excel」に挑戦できる力をつけることを目標とする。問題演習を行いながら、実践的に操作技術の学修をする。パソコン操作が苦手な学生は、自主学習により時間をかけてくることが望まれる。</p> <p>（基礎レベル）実際の作成例をもとに、図表の作成、グラフや図形の作成、簡単な数式の計算ができるようになることを目標とする。課題作成のために、日常的にパソコンを使用する時間を確保し、課題に取り組むこと。</p>										
教 科 書			参考書・リザーブブック							
書 名： Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名： ウィネット 出版社： ウィネット			書 名： なし 著者名： 出版社：							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		Excel の基礎的な操作技能を身につける。				◎			
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作 品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメント等）	合 計
評 価 割 合			50						50	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		授業で学修した Excel の基本操作、問題演習を通じて学んだことについての習熟度を学期末試験で評価する。 学期末試験は課題に替えることがある。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		課題提出にて評価する。未提出物がないように注意すること。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

(発展レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション 第 1 部 基本操作編 第 1 章 Excel の基本	講義、演習	○	学修内容の復習	0.5
	課題：オリジナル問題				
第 2 回 ／	第 2 章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：2 章 データの編集、練習問題 1・2・3				
第 3 回 ／	第 3 章 表の編集 罫線の設定、操作アシストの使い方、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列の幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：3 章 表の編集、練習問題 1・2・3				
第 4 回 ／	第 4 章 ブックの印刷 表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：4 章 ブックの印刷、練習問題 1・2・3				
第 5 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 グラフの作成、グラフの編集、図形の作成について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：5 章 グラフと図形の作成、練習問題 1・2・3				
第 6 回 ／	第 6 章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：6 章 ブックの利用と管理、練習問題 1・2・3				
第 7 回 ／	第 7 章 関数（1） 統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：7 章 関数、練習問題 1・2・3				
第 8 回 ／	第 7 章 関数（2） 統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：7 章 関数、練習問題 1・2・3				
第 9 回 ／	第 8 章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、データの抽出、テーブル機能について修得する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：8 章 データベース機能、練習問題 1・2・3				
第 10 回 ／	第 2 部 問題演習編 総合学習問題 第 1 部 基本操作編の集大成としての確認	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：総合学習問題				
第 11 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：練習問題 1、練習問題 2				
第 12 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：練習問題 2、練習問題 3				
第 13 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（3） 模擬試験と解説	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：模擬問題 1、模擬問題 2				
第 14 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（4） 模擬試験と解説	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：模擬問題 2、模擬問題 3				
第 15 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（5） 模擬と解説	講義、演習	○	学期末試験に向けて	1.5
	課題：模擬問題 3、模擬問題 4				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修（予習・復習等）に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

(標準レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション 第 1 部 基本操作編 第 1 章 Excel の基本	講義、演習	○	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	1.0
	課題：オリジナル問題				
第 2 回 ／	第 2 章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：2 章 データの編集、練習問題 1・2・3				
第 3 回 ／	第 3 章 表の編集 罫線の設定、操作アシストの使い方、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列の幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：3 章 表の編集、練習問題 1・2・3				
第 4 回 ／	第 4 章 ブックの印刷 表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：4 章 ブックの印刷、練習問題 1・2・3				
第 5 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 グラフの作成、グラフの編集、図形の作成について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：5 章 グラフと図形の作成、練習問題 1・2・3				
第 6 回 ／	第 6 章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：6 章 ブックの利用と管理、練習問題 1・2・3				
第 7 回 ／	第 7 章 関数（1） 統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：7 章 関数、練習問題 1・2・3				
第 8 回 ／	第 7 章 関数（2） 統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：7 章 関数、練習問題 1・2・3				
第 9 回 ／	第 8 章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、データの抽出、テーブル機能について修得する。	講義、演習	○		1.0
	課題：8 章 データベース機能、練習問題 1・2・3				
第 10 回 ／	第 2 部 問題演習編 総合学習問題 第 1 部 基本操作編の集大成としての確認	講義、演習	○		1.0
	課題：総合学習問題				
第 11 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	講義、演習	○		1.0
	課題：練習問題 1、練習問題 2				
第 12 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	講義、演習	○		1.0
	課題：練習問題 3、練習問題 4				
第 13 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（3） 模擬試験と解説	講義、演習	○		1.0
	課題：模擬問題 5、模擬問題 6				
第 14 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（4） 模擬試験と解説	講義、演習	○		1.0
	課題：模擬問題 7、模擬問題 8				
第 15 回 ／	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習	○	学期末試験に向けて	1.0

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

(基礎レベル)

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション 第 1 部 基本操作編 第 1 章 Excel の基本 エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなど を実習する。	講義、演習	○	学修内容の復習	0.5
	課題：授業に関するコメント				
第 2 回 ／	第 2 章 データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：2 章 データの編集				
第 3 回 ／	第 2 章 データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：2 章 練習問題 1・2・3				
第 4 回 ／	第 3 章 表の編集 罫線の設定、操作アシストの使い方、セルの書式設定、セルの配置、 表示形式の設定、列の幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除につ いて実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：3 章 表の編集、練習問題 1・2・3				
第 5 回 ／	第 4 章 ブックの印刷 表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の 指定について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：4 章 ブックの印刷、練習問題 1・2・3				
第 6 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：5 章 グラフと図形の作成				
第 7 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 (2) 様々なグラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：練習問題 1・2・3				
第 8 回 ／	第 6 章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウ操作について実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：6 章 ブックの利用と管理、練習問題 1・2・3				
第 9 回 ／	第 7 章 関数 (1) 統計関数の使い方を実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：7 章の 1 統計計算				
第 10 回 ／	第 7 章 関数 (2) 数学/三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：7 章の 2 数学/三角関数、7 章の 3 論理関数、7 章の 4 日付関数				
第 11 回 ／	第 7 章 関数 (3) 統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習す る。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：練習問題 1・2・3				
第 12 回 ／	第 8 章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、データの抽出、テーブル機能について実習 する。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：練習問題 1・2・3				
第 13 回 ／	第 2 部 問題演習編 総合学習問題（実習） これまでに学修した内容の総復習を行う。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：総合学習問題				
第 14 回 ／	第 2 部 問題演習編 総合学習問題（解説） これまでに学修した内容の総復習を行う。	講義、演習	○	学修内容の予習と復習	1.0
	課題：総合学習問題				
第 15 回 ／	最終課題 これまでに学修した内容の活用力を確認する。	講義、演習	○	学期末試験に向けて	1.5
	課題：最終課題				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	現代の統計学 Elementary Statistics	2単位	必 修	講 義	2年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>現代社会では、統計の知識は、すべての人にとって必須の知識となっている。また社会科学等分野におけるデータ処理法を理解する上で非常に重要な基礎知識である。</p> <p>本授業では、統計的考え方の重要性を学び、統計学が適用される現実の諸問題に関して、統計的に処理する方法論を学修する。具体的には、まず統計学の概念や論理的側面を全体的に把握し、さらに統計的処理の方法を表計算ソフトを用いて学ぶことを通して統計学の必要性を修得する。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
多方面で利用される統計的な処理の「論理的背景」を習得する。特に社会科学系等諸分野等における具体的な「統計手法」を修得する。また、今後履修する様々な応用専門科目の理解のための「統計学的素養」を身につける。				キーワード	記述統計 母集団と標本 統計的検定 相関係数					
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）										
<p>本授業は、統計の基礎について講義する。同時に模擬データを難しい数式を使わずに、表計算ソフトで統計的に処理しながら授業を進める。授業内に課題を課すので自らの力で取組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、各自で問題を解決して欲しい。</p> <p>「ソフトウェアリテラシー基礎」「ソフトウェアリテラシー応用」などパソコン関連の科目の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより深まる。</p>										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： なし 著者名： 出版社：			書 名： マンガでわかる統計学 著者名： 高橋 信 出版社： オーム社							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50				30		20	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		授業で学んだすべての内容を範囲とする。試験中で、表計算ソフトを用いた問題を課す場合もある。 各回の授業で学んだ内容の復習を行い、理解しておくこと。 全体評価の50%を占める。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品		各回の面接授業において、学んだ内容の理解を深めるための問題を設定し、各自解決に取り組む。 全体評価の30%を占める。								
ポートフォリオ										
そ の 他		毎回、課題シートを提出することで、統計学の知識の定着の確認を行う。 授業内に課題に取り組むことで、統計学の理解の確認を行う。 全体評価の20%を占める。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	ガイダンス 統計学とは 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 2 回 ／	統計グラフ 質的データと量的データ 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 3 回 ／	代表値（最大値・最小値・平均値・中央値・最頻値） 度数分布とヒストグラム 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 4 回 ／	代表値（分散・標準偏差） 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 5 回 ／	箱ひげ図 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 6 回 ／	標準化と偏差値 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 7 回 ／	確率密度関数 正規分布 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 8 回 ／	点推定 正規分布における区間推定 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 9 回 ／	単回帰分析 散布図 相関係数 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 10 回 ／	重回帰分析 ロジスティック回帰分析 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 11 回 ／	カイ二乗検定（2×2） 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 12 回 ／	カイ二乗検定（m×n） 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 13 回 ／	t 検定（片側検定） 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 14 回 ／	t 検定（両側検定） 模擬データの実習	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				
第 15 回 ／	まとめと復習 レポート	講義、演習		課題内容を復習する。	4
	課題シート、演習				

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	健康と運動 Physical Activity and Health	1 単位	選択必修	講 義	1 年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>運動には、血液循環機能や筋力・柔軟性の向上、骨量減少の防止、生活習慣病の予防など、身体に対する様々な効果が認められている。同時に他者との友好的な関係の構築やストレス発散など、社会的あるいは心理的な効果も期待できるとされている。さらに述べれば、特に高齢者においては、歩行を含めた日常生活での運動（身体活動量）の増大が、健康寿命の延伸に効果があると示されている。</p> <p>本講義では、適切な運動の実践が導く健康への効果を、身体的・心理的・社会的側面から検討・考察し理解する。同時に運動の実践が導く健康への効果を、他者にわかりやすく説明することができるようにする。また得られた知識を基礎に、健康状態の維持・向上のために、自らが積極的に運動を実践していこうとする態度を育成する。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
・運動実践が導く健康への効果を身体的・心理的・社会的側面から検討・考察し理解する。 ・運動実践が導く健康への効果を、他者にわかりやすく説明できるようにする。 ・健康状態の維持・向上のために、自らが積極的に運動を実践していこうとする態度を育成する。				キーワード	健康 発育発達 動機づけ					
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）										
<p>日常の健康・運動関連事項について関心を持つ。</p> <p>また日常生活においても健康に留意し、運動をしておくこと。</p>										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： 実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学			書 名：							
著者名： 九州大学健康スポーツ科学研究会			著者名：							
出版社： 大修館書店			出版社：							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		クライアントとのコミュニケーション方法について考えることができる。				○			
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		行動変容を促すアプローチ方法について考えることができる。				○			
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		クライアントへの動機づけをしたり、関係性を豊かにしたりする方法を実践することができる。				○			
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		ルールや約束を守り仲間と協力して授業に参加することができる。				○			
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		運動やスポーツに取り組む為のプログラミングづくりや継続方法を提案できるようになる。				○			
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			59	10	31					100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		筆記試験を行う。								
小 テ ス ト		授業内での筆記試験を行う。								
レ ポ ー ト		課題に対するレポート提出を行う。								
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	健康とは何か ①健康と体力の違い ②いろいろな寿命	講義		今回の復習	4
第 2 回 ／	身体の仕組み ①生理学的基礎 ②運動による生理学的変化	講義		前回・今回の復習	4
第 3 回 ／	運動による身体的変化 ①トレーニングの種類(有酸素運動・無酸素運動) ②トレーニングの効果(有酸素運動・無酸素運動)	講義		前回・今回の復習	4
第 4 回 ／	トレーニングのルール ①原理原則 ②ピリオダイゼーション(期分け)	講義		前回・今回の復習	4
第 5 回 ／	動きとスポーツ科学 ①心理的スキルトレーニング ②健康・スポーツとライフスキル	講義		前回・今回の復習	4
第 6 回 ／	身体機能と心理社会的スキル ①セルフエフィカシー ②ラポールの形成 ③トランスセオレティカルモデル(TTM)	講義		前回・今回の復習	4
第 7 回 ／	健康と運動 ①生活習慣病と運動 ②減量計画	講義		前回・今回の復習	4
第 8 回 ／	運動計画づくり ①身体的・トレーニング的アプローチ ②心理的アプローチ	講義		前回・今回の復習	4

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

科目ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	ニュースポーツ実習	1 単位	選択必修	実 技	1 年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
<p>スポーツの固定概念にとらわれることなく、身体を動かすことの楽しさを追求することがニュースポーツである。</p> <p>スポーツの観点から、スポーツ活動実践の有用性 ニュースポーツの意義を発見する。</p> <p>目標として、既存スポーツのルールを越えて、楽しさを実感できるオリジナルなスポーツ、すなわちニュースポーツを考えることができることを目指す。</p> <p>授業では、学生が相互にニュースポーツを模索し、評価をする。</p> <p>健康におよぼすポジティブな影響を体感し、今後の自分自身の体力 づくりや心身のメンテナンス、さらにあらゆる人間関係のある現場でのサポートに援用できる ことを理解する。</p> <p>また、人間関係のある現場における様々な対象者を想定し、対象者の特徴や目的に合わせ、実践・体験する。</p>									
科目を学ぶことの意義・意味									
各種目の特性を理解し、生涯スポーツについて、知見を広めることができる。また、他者関係の構築、理解、受容を体得することができる。将来、教育現場で応用できる。				キーワード	ニュースポーツのチカラ 生活の自立・共生・生きがいづくり				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
<p>ニュースポーツの意義を考え、実習を通じて、概要と特性に応じた支援方法や技術を、自ら学び自らの意思で積極的に取り組むことができる。</p> <p>専門的な知識・技術を身につけ、総合的に各プログラムの例を学修、展開方法・組み立て 支援の方法、 技術の向上への努力目標とする。</p>									
教科書			参考書・リザーブドブック						
書 名： なし			書 名： 公認スポーツ指導者養成テキスト、他						
著者名：			著者名： 日本スポーツ協会						
出版社：			出版社： 日本スポーツ協会						
No.	学科教育目標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	専門的な支援活動知識、方法を身につける。					◎		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	専門的な技能活動の展開方法、組み立てを身につける。					◎		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	支援・指導に必要な専門的な知識を身につける。					○		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	交流をすすめ、「楽しい」の働きかけ、技術を身につける。					○		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	健康づくりに必要な支援、効果的な活動。					○		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	生活意欲、生活の質の向上。身体機能の維持・向上。					○		
達成度評価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ロムトシート等)	合 計
評価割合		50		20	20			10	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試験	各回の授業内で講義・実習の理解度 支援活動の安全管理、心身の健康、体調の自己管理の理解度 レクリエーションの支援の方法、組み立ての理解と把握。								
小テスト									
レポート	コミュニケーション・ワーク、アイスブレーキングの理解度と把握度								
成果発表	「仲間・健康・笑顔・元気づくり」への道標の理解度 自考力、支援の技術を高める努力度								
作品									
ポートフォリオ									
その他	その他、努力が認められることについての評価								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授業計画表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	①ニュースポーツ実習 オリエンテーション ニュースポーツとは何かを考える 「スポーツの発達史 A」	教室 Let's Enjoy to New Sports		ニュースポーツの基本学修 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題 レポート 1/4 イベント計画案	1.5
	種類・意義を理解する スポーツは素晴らしい				
第 2 回 ／	②ニュースポーツ実習 種類種目調べ 概要と特性 ルール把握 他者とのコミュニケーションを高めるスポーツ	教室 展開・組み立て グループ運営		ニュースポーツの基本 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	1.5
	体が動く 明るく元気になる 仲間ができる 健康になる 存在				
第 3 回 ／	③ニュースポーツ実習 スポーツマンシップとフェアプレー精神 RICE 国民体育大会 オリンピック・パラリンピックの歴史	教室 展開・組み立て グループ運営 一体感		概要と特性 個人と集団(仲間)が理解できる 「楽しみ・夢づくり・幸せづくり」の共感 共学―共楽―共励―共通体験―共喜―共感、共生 学修反復問題 レポート 2/4 イベント計画案	1.5
	スポーツをする利点 スポーツ実施に対する考え方 ” みんなで楽しむ”				
第 4 回 ／	④ニュースポーツ実習 キャッチング・ザ・スティック	体育館 グループ運営 歴史を知る		概要と特性、ルール把握 学修反復問題	1.5
	チームワーク 息を合わせる その場の雰囲気を読む				
第 5 回 ／	⑤ニュースポーツ実習 ゴムダンスステッピョン	体育館 グループ運営 歴史を知る		概要と特性、ルール把握 学修反復問題	1.5
	スポーツは身近な事を知る お互いを思いやる その場の雰囲気を読む				
第 6 回 ／	⑥ニュースポーツ実習 イメージチェアエクササイズ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握 レポート 3/4 イベント計画案	1.5
	子どもから高齢者まで安全に運動できる				
第 7 回 ／	⑦ニュースポーツ実習 リレー	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	手具を使わないスポーツを楽しむ				
第 8 回 ／	⑧ニュースポーツ実習 ドッジボール	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	シンプルなプレイながら運動量が多く必ず経験するスポーツを再認識				
第 9 回 ／	⑨ニュースポーツ実習 パフリング	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握 レポート 4/4 イベント計画案	1.5
	タイミングを養う				
第 10 回 ／	⑩ニュースポーツ実習 ミニマラソン	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	何故？マラソンは4 2, 1 9 5になったのか？				
第 11 回 ／	⑪ニュースポーツ実習 長縄	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	スポーツは身近な事を知る お互いを思いやる その場の雰囲気を読む				
第 12 回 ／	⑫ニュースポーツ実習 フリンゴ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	エプロン上のクロスをラケットかわりにバウンドさせキャッチボールする				
第 13 回 ／	⑬ニュースポーツ実習 インディアカ	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	赤い羽根のシャトルをネットを挟みチーム4人相対して打ち合う競技				
第 14 回 ／	⑭ニュースポーツ実習 アルティメット	体育館 グループ運営 模擬試合と審判体験		概要と特性、ルール把握	1.5
	ドッチビーを使用 ダイビングカット ダイビングキャッチの魅力				
第 15 回 ／	⑮ニュースポーツ実習 ニュースポーツとは何かを振かえる 「スポーツの発達史 B」	教室 グループ運営 模擬試合と審判体験		ニュースポーツの基本学修 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	1.5
	ニュースポーツとスポーツの違い、利点、使用方法				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は 30 時間/単位、「演習科目」は 15 時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

科目ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	レクリエーション実習 Practice to Recreation and Sports	1 単位	必 修	実 習	1 年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
新しい環境に馴染めないことで、良好な人間関係を構築することが難しいと考えている子どもたちや青年、また、健康な生活を心がけている中高年、全ての世代を対象に、心も身体も健やかに日常生活を送るためのきっかけ作りとしての意味を理解すること。 学校教育現場では、クラス運営や仲間作りのきっかけとして、活用できるように知識や技術を学び、また、地域社会においてはコミュニティの活性化に役立てられることを理解し、技術を身につけることを目的とする。									
科目を学ぶことの意義・意味									
人間関係づくりの手法を体得することができ、ライフスキル獲得につなげることができる。中高年の健康維持・増進に役立つことを理解できる。				キーワード	レクリエーションは楽しい 子どもの発育				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
支援の基本技術や方法を、自らの意思で自ら学び、積極的に取り組むことができる。 「よりよく生きる」を目指し、多様な支援、様々な素材、指導活動方法を知ることができる。 「Smile for all」「楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくり」の共感。 各種目の概要と特性、学修プリント、授業内・授業外を問わず確認し、整理保存と復習をすること。 目的・対象・段階にあわせたプログラム例の把握と理解。 「レクリエーションとスポーツ」の展開方法・組み立ての理解。									
教科書				参考書・リザーブドブック					
書 名： 小学校教諭に必見 学級つくり役に役立つレクリエーションゲーム 著者名： 小西亘 小田原一記 出版社： 公益財団法人日本レクリエーション協会				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学科教育目標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	基礎的な支援知識、方法を身につける。					◎		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	基礎的な技術の学修と展開方法・組みたてを身につける。					◎		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	様々なレクリエーションの知識を身につける。					○		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	多様な技術を身につけ、自覚と責任ある行動ができる。					○		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくりができる。					○		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	「いつでも どこでも だれとでも」リーダーとなって指導ができる。					○		
達成度評価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ポスター等)	合 計
評価割合		50		10	30			10	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試験	レクリエーションとスポーツ支援の基本技術の理解度、応用力の評価を学期末に実施する。 学修反復問題								
小テスト									
レポート	学修内容のまとめ、イベント等の原案作りを行う。提出期限の厳守。								
成果発表	グループ発表の実施。								
作品									
ポートフォリオ									
その他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授業計画表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション・レクリエーションとは何か レクリエーション支援の方法①	質疑応答 実技形式		レクリエーションの基礎知識の習得 アイスブレーキングの基礎知識の習得	1
	レクリエーションの意味を理解する レクリエーションインストラクター資格取得説明				
第 2 回 ／	レクリエーション支援の方法② 道具を使わないアイスブレーキングゲーム (1)	質疑応答 実技形式		レクリエーション・アイスブレーキング の習得	1
	環境・状況に関わらずアイスブレーキングができる事を学ぶ				
第 3 回 ／	レクリエーション支援の方法③ 仲間作りを目的とした音楽のワーク（1） 音楽や歌を使ったレクリエーション	実技形式 グループ活動		音楽の影響力の認知 個人の回想・熟考 自発的行動の意識	1
	音楽や歌を使い仲間づくりの理論を理解する				
第 4 回 ／	レクリエーション支援の実施① 音楽や歌を使ったレクリエーションのグループの発表・評価（1）	実技形式 グループ活動 グループ発表		発表提供レポート 1 / 4	1
	音楽や歌を使い楽しい仲間づくりを提供する				
第 5 回 ／	レクリエーション支援の方法④ 少人数のアイスブレーキングゲーム (1) 仲間作りを目的としたゲーム	質疑応答 実技形式		授業時に提示された課題に取り組む	1
	スキンシップの効果を考える				
第 6 回 ／	レクリエーション支援の方法⑤ 対象者の身体能力に合わせたレクリエーション（1）	実技形式 グループ活動		授業時に提示された課題に取り組む	1
	体を動かすことで仲間づくりの理論をする				
第 7 回 ／	レクリエーション支援の方法⑥ 対象者の身体能力に合わせたレクリエーション（2）	実技形式 PDCA を行う グループ活動		ODCA を行い立案 発表提供レポート 2/4	1
	グループワークへの参加				
第 8 回 ／	レクリエーション支援の実施② 各グループの発表・評価（2）	実技形式 グループ発表		授業時に提示された課題に取り組む	1
	提供への熱意 参加者としての配慮				
第 9 回 ／	レクリエーション支援の方法⑦ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（1）	実技形式 グループ活動		授業時に提示された課題に取り組む	1
	着席で行うレクリエーション				
第 10 回 ／	レクリエーション支援の方法⑧ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（2）	実技形式 PDCA を行う グループ活動		授業時に提示された課題に取り組む 発表提供レポート 3/4	1
	グループワークへの積極的参加				
第 11 回 ／	レクリエーション支援の実施③ 各グループの発表・評価（3）	実技形式 グループ発表		授業時に提示された課題に取り組む	1
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク				
第 12 回 ／	レクリエーション支援の方法⑨ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（3）	実技形式 グループ活動		授業時に提示された課題に取り組む	1
	動作を伴い行うレクリエーション				
第 13 回 ／	レクリエーション支援の方法⑩ 対象者の環境・状況合わせたゲームのレクリエーション（4）	実技形式 PDCA を行う グループ活動		授業時に提示された課題に取り組む 発表提供レポート 4/4	1
	グループワークへの積極的参加				
第 14 回 ／	レクリエーション支援の実施④ 各グループの発表・評価（4）	実技形式 グループ発表		授業時に提示された課題に取り組む	1
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク				
第 15 回 ／	レクリエーション支援の実施⑤ 各グループの発表・評価（5）	実技形式 グループ発表		授業時に提示された課題に取り組む	1
	提供への熱意 参加者としての配慮 全体のチームワーク				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は 30 時間/単位、「演習科目」は 15 時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してくだ

さい。
学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 人文・社会学分野	堺学（堺の文化と歴史） Study of Sakai City (Culture and History of Sakai City)	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
本学の所在する堺市は注目すべき歴史遺産や中世・近世・近代・現代にわたるユニークな都市としての歴史がある。世界遺産になった百舌鳥古市古墳群、ヨーロッパにまで知られた中世海外交易都市、鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった近世商工都市、海浜を生かした近代アーバンリゾート都市の歴史など。そこで生み出された文化は現代の社会生活にも生きている。学生生活をはじめ、地域社会で活動していくうえで、その歴史や文化にふれることは有意義である。単に郷土史を知るということではなく、都市が形成され、成長・変遷の様子をさぐり、そこに生きる生き方・暮らし方にコミットし、未来につなぐことができるようになる。										
科目を学ぶことの意義・意味										
大学の立地する都市の歴史・文化・まちづくりの姿を具体的に理解し、学生生活中はいうにおよばず、将来の社会生活や活動に有益な知識や見方・考え方を身につけることができる。				キーワード	都市、文化、歴史、堺、百舌鳥古市古墳群 世界文化遺産					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
中・近世、近・現代と連続して存立してきた都市が、時代により、その特徴や性格が変遷してきたことに留意し、次の時代にあるべき都市の姿を考えることも大切で、都市から国、さらに世界を見る視点を養う。 毎授業ごとに具体的テーマを設定。用意する資料・レジュメを活用する。教員からの見方だけでなく、いろんな見方・捉え方があるはずなので、質問・設問時間をとる。資料・レジュメは整理・保存・毎時持参すること。										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： なし 著者名： 出版社：			書 名： 書 名：堺意外史１００話（２０１９年） 著者名： 著者名：中井 正弘 出版社： 出版社：ホウユウ出版部							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		所定の学修以外に自主的に博物館等の見学学修を行う。○							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		学内図書館にも本授業の参考になる図書があるので予習・復習に活用。◎							
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			59		20	21				100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		学修の理解度・応用力・まとめる力を評価のため、学期末に実施する。各回の授業内容をノートにとり、よく整理しておくこと。調べ学修ができるように事前にいくつかのテーマを設定する。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト		課題授業での学修内容のまとめをレポートにして提出。 居住地などの博物館・資料館などを自主的に見学・学修を行いレポートを提出することを求めることもある。								
成 果 発 表		各授業において随時、設問を行い、口頭での積極的な発表を評価する。 全授業を通じての学修成果の自己評価文を評価する。								
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的な内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的な内容	時間※3
第 1 回 ／	シラバスなどの説明 「堺学」の学修目的	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 2 回 ／	世界遺産になった百舌鳥・古市古墳群と大山古墳（仁徳陵）	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 3 回 ／	河内鑄物師の活躍 泉北丘陵は古代のハイテク須恵器の一大生産地帯	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 4 回 ／	律令国家体制（奈良時代）と堺出身の僧・行基	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 5 回 ／	東南・東アジアの繁栄と堺商人の海外交易の実態	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 6 回 ／	泉南仏国といわれた中世都市堺、千利休の大成させた茶の湯文化	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 7 回 ／	キリスト教宣教師が見た戦国時代の堺	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 8 回 ／	鉄砲の量産が可能だった鍛冶のまち堺	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 9 回 ／	大坂夏の陣後のみごとな復興計画都市	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 10 回 ／	鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった町と港湾・新地・新田開発	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 11 回 ／	大阪府に併合された堺県の近代教育と産業振興	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 12 回 ／	海浜リゾート都市だった近代（大浜・浜寺と与謝野晶子）	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 13 回 ／	アジア太平洋戦争下のまちと堺大空襲 臨海工業地帯の造成と泉北ニュータウン建設	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	受講態度、積極性（質問など）				
第 14 回 ／	堺の伝統産業	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
第 15 回 ／	周辺町村合併および政令指定都市と現在のまちづくりの課題	講義		予習：参考書等の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 1.3 復習 2.7
	まとめ				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 人文・社会学分野	表現入門 Introduction to Japanese Expression	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等待遇表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。									
科目を学ぶことの意義・意味									
学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。				キーワード	国語常識				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： キャリアアップ国語表現法 25 訂版 著者名： 丸山顕徳、その他 出版社： 嵯峨野書院				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	発信力をつけたり、問題解決能力など社会に必要な基本的な力を養う。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		59			35			6	100
評価方法		評価の実施方法と注意点							
試 験		教科書からすべて出題する。社会人になるための必要最低限の基礎知識と応用能力の検査である。							
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト									
成 果 発 表		全員に教科書を提出してもらう。教科書内の問題演習にきちんと取り組んでいるか否か、丁寧さや熱心さ等を教科書全般の自筆記述内容を通して評価する。							
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他		解答を板書する際、どの程度積極的に参加したかその日常的な態度を評価する。							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 2 回 ／	文字表現 1 同音異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 3 回 ／	文字表現 2 同訓異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 4 回 ／	文字表現 3 音訓と熟語 文字表現 4 四字熟語	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 5 回 ／	文章作成 1 レトリック 文章作成 2 慣用表現の誤用	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 6 回 ／	文章作成 3 文のしくみ	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 7 回 ／	文章実践 1 縦書き原稿用紙の使い方 横書き原稿用紙の使い方	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 8 回 ／	文章実践 2 手紙とハガキ①	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 9 回 ／	文章実践 3 手紙とハガキ②	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 10 回 ／	文章実践 4 実際に書く（ハガキ等）	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 11 回 ／	口語表現 1 待遇表現①	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 12 回 ／	口語表現 2 待遇表現②（婉曲表現）	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 13 回 ／	口語表現 3 接客・電話・SNS	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 14 回 ／	就職作戦 1 履歴書とエントリーシート	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 2 復習 2
	問題演習				
第 15 回 ／	就職作戦 2 面接の答え方のポイント	講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	○	・学修した教科書やプリント教材の復習	予習 2
	問題演習				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本教養科目	文章作成法 Japanese Composition	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>国語の表現力を鍛えることは、知性や感性を磨き豊かな日常生活を送るために不可欠である。日本語表現に関する特質を学び、社会人として必要な文章表現能力を涵養する。現代社会における複雑な人間関係の中で積極的であるために、的確な表現力を身に付け、正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養う。</p> <p>目標として、社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付けることをめざすと共に、大学卒業年次に取り組む「卒業論文」の書き方の基礎が身に着くようにする。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができると共に、大学卒業年次に取り組む「卒業論文」の書き方の基礎が身につく。				キーワード	適確な表現力・コミュニケーション能力 「卒業論文の書き方」					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
<p>（概要）書くことに慣れ、短文を重ねることで長文が書けるようにする。書くことの実践力をつける。</p> <p>（助言）毎時間の学修の復習と、課題作文等に対し継続して取り組むこと。</p> <p>（関連）他教科でのレポート等の課題に取り組む時に、本科目で学習した文章表現力を生かし、短文を重ねて表現することができる。</p> <p>（予備知識）要約する力。</p>										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： 手づくり資料			書 名： 大学生のための日本語表現トレーニング							
著者名：			著者名： 安部朋世 他							
出版社：			出版社： 三省堂							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		社会人として必要な文章表現能力を涵養する。◎							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付ける。◎							
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50				25	25		100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		作文演習と、学修内容の知識・理解における定着による。 知識・理解の確認に片寄らず、文章がどの程度書けるようになったのかを確認する。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品		課題とした提出作文の評価による。								
ポートフォリオ		毎回の授業取り組みの点検（学修ノートによる）								
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	授業ガイダンス。（事前・社会人基礎力含む） ① アカデミックワードと日常語 ② 仮名遣い・送り仮名③ （作文）夢（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「自分の夢」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 1, 2, 5, 6	4
	学修の進め方を理解し、本時の作文課題「私の夢」について、自分の夢が書けている。				
第2回 ／	④ 句読点 ⑤ 四字熟語・ことわざ・慣用句 ⑥ （作文）趣味（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「自分の趣味」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 9, 10, 13, 14	4
	本時の作文課題「私の趣味」について、書けている。				
第3回 ／	⑦ 漢字の使い分け・見やすい表記 ⑧ （作文）好きな食べ物（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「自分の好きな食べ物」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 17, 18, 21, 22	4
	本時の作文課題「私の好きな食べ物」について、書けている。				
第4回 ／	⑨ 敬語・手紙 ⑩ （作文）行ってみたいところ（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「行ってみたいところ」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 23, 24, 27, 28	4
	本時の作文課題「行ってみたいところ」について、書けている。				
第5回 ／	⑪ Eメール・あいまいな文 ⑫ （作文）好きな映画（俳優）（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「好きな映画（俳優）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 31, 32, 35	4
	本時の作文課題「好きな映画（俳優）」について、書けている。				
第6回 ／	⑬ 分かりやすい語順・長い文を分ける ⑭ 「好きな歌（歌手）」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「好きな歌（歌手）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 37, 39, 40	4
	好きな歌（歌手）について、書けている。				
第7回 ／	⑮ 文のねじれ・接続表現の使い方 ⑯ 「好きな本（作家）」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「好きな本（作家）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 43, 45, 46	4
	好きな本（作家）について、書けている。				
第8回 ／	⑰ 結論を先に述べる・事実か意見か ⑱ 「～たいなあ（私の欲望）」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「～たいなあ（私の欲望）」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 49, 51, 52	4
	「～たいなあ（私の欲望）」について、書けている。				
第9回 ／	⑲ データの解釈・レポートの内容と執筆スケジュール ⑳ 「自慢」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「自慢」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p55, 56, 59	4
	「自慢」について、書けている。				
第10回 ／	㉑ 文献の検索・調査課題の設定 ㉒ 「1語だけを残すなら」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「1語だけを残すなら」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p61, 63	4
	「1語だけを残すなら」について、書けている。				
第11回 ／	㉓ レポートの構成・注の書き方 ㉔ 「私の幸せ論」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「私の幸せ論」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p65, 67, 68	4
	「私の幸せ論」について、書けている。				
第12回 ／	㉕ 参考文献の書き方・体裁・書式 ㉖ 「もしも」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「もしも」についてのイメージをできるだけ多く書き出してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p71, 72, 75	4
	「もしも」について、十分書けている。				
第13回 ／	㉗ レポート課題とレポートを欠く順序・先行研究について ㉘ 「私の折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		いくつかの「折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）について読んでくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p77, 79, 80	4
	「私の折々の歌」（詩や短歌の鑑賞文）について、書けている。				
第14回 ／	㉙ 調査の概要・調査結果と考察 ㉚ 「大人のぬりえ本（絵本の文章）」（400字）＜相互評価＞	講義と演習（作文）		「絵本の文章」について考えてくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 85, 86, 89, 90	4
	「大人のぬりえ本（絵本の文章）」について、書けている。				
第15回 ／	㉛ 結論と今後の課題・そして「はじめに」へ ㉜ 「私の文章作成法」	講義と演習（作文）		これまでの学修を復習してくる。 学修内容の予習テキスト「大学生のための日本語表現トレーニング」p 93, 94, 97, 98	4
	これまでの学修を振り返り「私の文章作成法」が書けている。				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修（予習・復習等）に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本教養科目	日本の文学 Japanese Literature	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<div> <div>日本の文学を古代から、中世・近世・近現代にわたって俯瞰する。古事記・日本書紀から芥川賞・直木賞作品までを文章や動画等を通して各時代の作品に触れ、日本の文学への関心をもつことができる。</div> </div>										
科目を学ぶことの意義・意味										
学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、広く人間と文学について考えることができるようにする。 また、近現代文学の一端に触れ、日本の近現代文学を通して、日本の近現代社会についても自分の考えを述べることができる。					キーワード	日本文学史				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
授業を通して学生自身が、日本の文学に興味・関心が持てるような授業資料を準備して臨みたい。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：最新 国語便覧（改訂・増補） 著者名： 出版社：浜島書店				「源氏物語」等授業で取扱う教材の文庫等						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		文学を通して、倫理観等（人間としての生き方）について考える力をつける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		歴史や文学を通して先達の「知恵」を学び、実社会での問題解決能力を身につける。							
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50		30	20				100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		授業内容の重要点をまとめ、配布したプリント内容の理解度を見る。学期末に行う。 毎回の授業内容をしっかりつかんでいくこと。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト		前半の古代日本文学の学びから自分の関心に引き付けてレポートを書き履修学生の前で報告する。								
成 果 発 表		後半の近現代日本文学の学びを踏まえ「私」の好きな文学についてレポートを書き履修学生の前で報告する。								
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的な内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的な内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の説明	講義と演習		シラバスを事前に読んでくる	予復習 4
第 2 回 ／	日本の古代文学(1) ―古事記―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 3 回 ／	日本の古代文学(2) ―日本書紀―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 4 回 ／	日本の古代文学(3) ―万葉集―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 5 回 ／	日本の古代文学(4) ―竹取物語―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 6 回 ／	日本の古代文学(5) ―勅撰和歌集―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 7 回 ／	日本の古代文学(6) ―枕草子―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 8 回 ／	日本の古代文学(7) ―源氏物語―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 9 回 ／	演習(1) ―日本の古代文学について―	講義と演習		万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート作成	予復習 4
	古事記・日本書紀・万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート報告				
第 10 回 ／	日本の中世文学(1) ―幽玄・有心の文学観(1)―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 11 回 ／	日本の中世文学(2) ―幽玄・有心の文学観(2)―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 12 回 ／	日本の近世文学(1) ―上方文学―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 13 回 ／	日本の近世文学(2) ―江戸文学―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 14 回 ／	日本の近現代文学 ―明治以降―	講義と演習		「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所を読み	予復習 4
	―基本的な知識と特性を理解する―				
第 15 回 ／	演習(2)日本の近現代文学 ―芥川・直木賞―	講義と演習		私の好きな小説レポート作成	予復習 4
	私の好きな小説レポート報告				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 人文・社会学分野	介護概論 Introduction to Care	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
教員資格を目指すにあたり、事前課題である「介護等体験」を理解し現場での実習をスムーズに実施できることを主目的とする。社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、演習を通して、教育者に必要な姿勢や考え方を養う。本講義では、高齢者介護の知識や介護技術を中心に介護体験がより良く行えるよう、また、実習の意義や必要性についての理解を深める。										
科目を学ぶことの意義・意味										
社会福祉施設および特別支援学校における介護等体験の意義や体験内容を理解し、実習にあたっての自身の心構えや学びたい目標を事前に準備をすることができる。				キーワード	高齢者介護 利用者理解 実習の意義 実習態度					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
介護等体験で関わる高齢者や障害のある人について、置かれた状況や必要とする支援内容、また、日常生活を営む上で、その人の有する能力を活用し、その人らしい生活を営めるよう支援するための原理原則について、講義、ワークを通じて基礎知識の習得と定着をはかる。										
新聞および各種メディアの報道に関心を持ち、特に福祉・介護等生活領域での問題やトピックスを理解するよう心がける。										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： 改訂 人にやさしい介護技術 著者名： 野村 敬子 出版社： 中央法規			単元ごとにレジュメと参考資料を配布します。							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		学童が成長していく過程をライフサイクルから捉え、その中で障がいを持って成長する事を理解し人権について考えることができる。					○		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		障がい児の特性を理解しその特性に応じた関わり方の違いと技術を学ぶ。					○		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		障がい児の発達を理解し、その成長の先に高齢者問題があることも含めて理解でき、制度との関係を学ぶ。					○		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		障がい児の特性に応じた生活支援の方法や喀痰吸引制度について学ぶ。					○		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		介護を必要とする人の生活のしづらさを理解し、相手の立場に立って必要な支援を考えることができる。					○		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		障がい児・者、高齢者問題から社会福祉を広義に理解し、現代社会における福祉の現状と課題を理解できる。					○		
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50	10	20	20				100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		重要項目についての理解度を評価する。学期末に筆記試験を実施する。 配布資料を基本として整理し、介護の基本的能力を養い、福祉に求められる人として自己覚知ができる。								
小 テ ス ト		授業の各単元のまとめとして現場で必要とされる内容が理解できているか確認する。 ①介護を行う上での基礎知識の内容 ②生活支援技術の基礎知識の内容								
レ ポ ー ト		指示された単元のテーマに基づいて必要な情報をレポートとしてまとめ、内容に応じてワード入力、手書き書き込み、図式などを記述し提出する。								
成 果 発 表		実技演習をとおして、介護技術の基本を学ぶ。								
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	介護概論を学ぶ意義 1 オリエンテーション 自己紹介、授業の目標、授業の進め方、介護を学ぶ必要性	講義および演習、グループワーク		介護の歴史や、その必要性について、インターネットで調べ、まとめる。	2.1
第 2 回 ／	社会保障制度と高齢者の暮らし	講義および演習、グループワーク		社会保障の概要について調べ、まとめる。	4.3
第 3 回 ／	介護保険制度と高齢者の暮らし	講義および演習、グループワーク		介護保険制度について調べ、高齢者の暮らしとの関係性を考え、まとめる。	4.3
第 4 回 ／	高齢者の暮らしを制度から考える	講義および演習、グループワーク		第 2 回目・3 回目のレポート学習を終えている事	4.3
第 5 回 ／	対人援助におけるコミュニケーションの技法 コミュニケーションの必要性・傾聴と共感	講義および演習、グループワーク		日常生活において、家族や友人等、人間関係で困った事や悩んだことの経験を各自でまとめておく。	4.3
第 6 回 ／	介護を必要とする人の理解 身体に障害を有する人の理解、認知症の人の理解	講義および演習、グループワーク		認知症の種類とそれぞれの症状について、各自で調べておく。	4.3
第 7 回 ／	視覚障害のある人の手引き歩行	講義および演習、グループワーク		視覚障害のある人が生活するとはどういう事かどのような環境が求められるかをまとめておく。	4.3
第 8 回 ／	関連職種との連携、チームケアの必要性	講義および演習、グループワーク		介護領域で関連する職種について、名称と主な業務について調べておく。	4.3
第 9 回 ／	基本的介護技法 1 移乗・移動の介護、車いすの基本的操作	講義および演習、グループワーク		車いすで学内を移動、その体験を通じて気づいたことや、介助者が配慮すべき点等をまとめる。	4.3
第 10 回 ／	基本的介護技法 2 衣類の着脱の介護	講義および演習、グループワーク		骨折やけがなどで通常行っている着替えができなくなったとき、自分ならどうするか（どうしてほしいか）まとめておく。	4.3
	ミニテスト				
第 11 回 ／	基本的介護技法 3 食事の介護方法	講義および演習、グループワーク		自身の食事に関するこだわりや食事習慣についてまとめておく。	4.3
	ミニテスト				
第 12 回 ／	基本的介護技法 4 排泄の介護	講義および演習、グループワーク		排泄に対する援助を必要とする人の気持ちや援助の留意点についてまとめる。	4.3
	ミニレポート				
第 13 回 ／	介護者への支援・虐待防止、介護を必要とする人の支援・まとめ	講義およびグループワーク		「虐待」についての事件や関連のある出来事について、各自で調べてまとめておく。（高齢者分野以外でもよい。）介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	4.3
第 14 回 ／	介護現場で働く人の心構えと求められるニーズ	講義および演習、グループワーク		介護現場で働く人の心構えを理解し、そこで働く者には、どのようなニーズが求められているかを理解する。	4.3
	ミニレポート				
第 15 回 ／	総括 介護概論を学んで福祉に求められる人として自己覚知を行う	講義および演習、グループワーク		介護概論を学び、自己覚知を行う。	2.1

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本教養科目	暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life	2単位	必 修	講 義	1年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。										
科目を学ぶことの意義・意味										
本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。				キーワード	最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治					
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）										
この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実在即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。										
実質的な講義が始まる前に、できる限り憲法前文を読んでおくこと。憲法条文についてはI T等を活用して自ら資料収集すること。講義の前には関連する条文を読んでおくこと、また常に現代の社会に目を向けるため、新聞やテレビ等の時事にも興味と関心を持つように心がけましょう。										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
授業毎に資料を配布する。			講義の際に必要な応じて紹介する。							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		法に基づく基本的人権を知る。				◎			
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		福祉国家理念に基づく制約を知る。				○			
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			59						41	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		日本国憲法の基礎・基本についての理解度と現在起きている問題意識についての認識も評価いたします。 各回の授業内容の整理、振り返りシート・小テストの復習を行い、理解しておくこと。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		各回の授業内で演習を行う。個別の振り返りシートを用いる場合と、コメント用シートに記載する場合がある。 授業中に指示し、実施するので欠席した場合は、評価は基本できない。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	憲法を学ぶ ・ 憲法の意義、学び方 ・ 成績評価方法等	講義形式		憲法について予習すること	4
第 2 回 ／	国民主権と天皇象徴制 ・ 主権とは何か。 ・ 日本国憲法における象徴の意味	講義形式		国民主権の意義と天皇制についての予習すること	4
第 3 回 ／	国際協調主義 ・ 周辺諸国との領土問題 ・ 集団的自衛権	講義形式		国際協調主義について予習すること	4
第 4 回 ／	平和と憲法 ・ 憲法 9 条の平和主義 ・ 国際協調主義・・・ウクライナ侵攻など時事	講義形式		平和主義について予習すること	4
第 5 回 ／	憲法改正問題 ・ 憲法 9 条を中心とする憲法改正論議	講義形式		憲法改正問題について予習すること	4
第 6 回 ／	基本的人権の尊重 ・ 基本的人権に関する基本原則と分類 ・ 世界情勢からみた日本の基本的人権	講義形式		基本的人権の意味・意義について予習すること	4
第 7 回 ／	政治と憲法 ・ 政治のあり方（三権分立・議院内閣制等・国会） ・ 選挙制度（改正選挙法）	講義形式		三権分立・議院内閣制・選挙制度について予習すること	4
第 8 回 ／	税金と憲法 ・ 納税の義務と租税法律主義	講義形式		納税の義務について予習すること	4
第 9 回 ／	社会保障と憲法 ・ 生存権的基本権（生活保護など）	講義形式		社会保障について予習すること	4
第 10 回 ／	報道と憲法 ・ 表現の自由・知る権利・報道の自由	講義形式		表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること	4
第 11 回 ／	新しい人権・・・プライバシーと憲法 ・ 個人のプライバシー権と個人情報保護法	講義形式		新しい人権・プライバシー権について予習すること	4
第 12 回 ／	刑事訴訟と憲法 ・ 奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	講義形式		刑事訴訟について予習すること	4
第 13 回 ／	裁判所と憲法 ・ 法令審査権と三審制 ・ 裁判員制度	講義形式		裁判所について予習すること	4
第 14 回 ／	地方自治法と憲法 ・ 地方自治制度と地方分権	講義形式		地方自治について予習すること	4
第 15 回 ／	まとめ（1） （第 1 回からの内容のまとめを行う）	講義形式		これまでの授業の内容について復習すること	4

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 人文・社会学分野	法と社会 Law and Society	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
現代社会に生きる我々は法という規範によって自由と平等・社会秩序が保障されている。法律を初めて学ぶ学生に法律についての全体像が把握できるように具体的に平易に解説する。憲法が国法の体系の中でももっとも強い形式的効力をもつこと、すなわち、憲法に反する一切の国法は効力をもたない。その憲法を主に研究したい。天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を習得することを目的とする。										
科目を学ぶことの意義・意味										
憲法の理解を基に、天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を持つことができる。				キーワード	国家と国民、法と法律					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
いわゆる六法の類型を理解し、日本国憲法の周辺知識と、基礎的内容を学修する。										
他の科目も、法律に基づき開講されているものが多くある。根拠法律を一読することが必要で、その読解力の養成につなぐ。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名： 改訂版 新・学習憲法 著者名： 構木 純二・金谷 重樹・吉川 寿一著 出版社： 晃洋書房				書 名： 著者名： 出版社：						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合 計
評 価 割 合			55	20	10				15	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		試験問題作成上、法学の基礎的問題や判例も解説できる設問を作成し、憲法だけでなく民事の設問も加え、答えやすい小論文形式の試験問題とする。								
小 テ ス ト		授業期間の中間時点（7回目又は8回目）で前半分の理解力を試す。								
レ ポ ー ト		民事・刑事判例を解説し、批評をさせる。								
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		国籍法、国旗・国歌法、祝日法、個人情報保護法 等の条文を読ませ、主要条文の要点をマークさせて、受講態度点に加える。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	ガイダンス 自己紹介と講義の進め方と評価、法律とはどのような学問かを説明する。	講義		NHK テレビニュース 19：00, 21：00 等を聴取する	4
第 2 回 ／	法とは何か、法が存在形式と目的 法と社会 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法的重要性について。	講義		NHK テレビニュース 19：00, 21：00 等を聴取する	4
第 3 回 ／	法とは何か、法が存在形式と目的 法と社会 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法的重要性について。	講義		NHK テレビニュース 19：00, 21：00 等を聴取する	4
第 4 回 ／	法の種類と体系 法と法律の違い。法源・法の理念について。 成文法 不文法 国際法 国内法（公法・ 私法 ・社会法）	講義		NHK テレビニュース 19：00, 21：00 等を聴取する	4
第 5 回 ／	法の効力・適用と解釈 法の効力と解釈の仕方。有権解釈 学理解釈 立法解釈 司法解釈 行政解釈 文理解釈 論理解釈 法不遡及の原則。既得権尊重の原則。	講義		NHK テレビニュース 19：00, 21：00 等を聴取する	4
第 6 回 ／	法と権利義務 権利とは何か、義務とは何か。 国民の三大義務 現代は法を権利の面から、古代中世は法を義務の面から。	講義		同上、その他日本史教科書を読む	4
第 7 回 ／	憲法 日本国憲法と明治憲法との比較 国家とは何か 憲法とはどのような法律か。国家とは何か。日本国憲法と明治憲法との比較	講義		同上、その他日本史教科書を読む	4
第 8 回 ／	国民主権 国民の、国民による、国民のための政府 天皇 皇室 象徴天皇制 女性天皇問題 皇室財産	講義		同上、その他日本史教科書を読む	4
第 9 回 ／	基本的人権 基本的人権の体系と三権分立のしくみ 人権の限界 基本的人権と公共の福祉の関係 環境権 新しい人権 幸福追求権 政教分離原則	講義		NHK ニュース等を聴取	4
第 10 回 ／	国会 国会の最高機関性 唯一の立法機関 衆議院の優越 国会議員の特権	講義		NHK ニュース等を聴取	4
第 11 回 ／	内閣 財政 内閣の機能 内閣の衆議院の解散権 文民財政に関する憲法上の原則 租税法律主義	講義		NHK ニュース等を聴取	4
第 12 回 ／	地方自治 民主主義の学校としての機能。 地方自治の本旨と住民の直接請求権。	講義		同上 その他新聞、地域新聞を読む	4
第 13 回 ／	憲法改正 裁判所 司法権の独立 大津事件 三審制度 違憲立法審査権	講義		NHK ニュース等を聴取	4
第 14 回 ／	国際法 国際社会と法 国際法の特徴 国際公法と国際私法	講義		NHK ニュース等を聴取	4
第 15 回 ／	国家・国民、平和主義、国民主権、基本的人権保障 の総括	講義		NHK ニュース等を聴取	4

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 人文・社会学分野	近代史の探究 Research in Modern History	2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
<p>現代は世界各地で宗教紛争が起こり、異文化同士が衝突する時代である。近代という時代（16～19 世紀）は、現代の直前の時代としてきわめて重要な意味を持っている。近代の歴史とこれに続く現代の歴史を学ぶことは、今後の世界を生きていくうえで必要不可欠である。</p> <p>以上のことをふまえ、この授業では、現代世界の成り立ちについて、近現代の歴史を学ぶことを通して、理解できるようになることを目的とする。</p>									
科目を学ぶことの意義・意味									
近代の歴史に関する理解を深めることを通して、現代世界について理解を深めることができるようになる。				キーワード	異文化理解 宗教 グローバリズム ナショナリズム 文明の衝突				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
新聞やテレビ、インターネットのニュースを閲覧・視聴して、自分なりに現代世界の国際情勢と関係させて授業を受けると良い効果があるので実践してほしい。									
教 科 書			参考書・リザーブドブック						
書 名： なし 著者名： 出版社：			書 名： なし 著者名： 出版社：						
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	近代史に関する理解を土台にして、現代の世界情勢について自分なりの考え方を持つことができる。					○		
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		41		45				14	100
評価方法		評価の実施方法と注意点							
試 験		授業内容が理解できているかどうかを問う学期末試験を実施する。毎回提出しなければならない「レポート」（下記参照）への取り組みが授業理解の土台となるので、毎回のレポートをしっかりと作成・提出し、試験に臨むこと。							
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト		毎回の授業で、授業内容の理解度を問うレポートをTGU e-Learning で提出してもらう。試験に深く関係するので毎回しっかり取り組むこと。レポートの分量(文字数)と内容も評価対象である。詳細は授業で説明する。							
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他		My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用してディスカッション等に取り組んでもらう。参加(出席) 状況、投稿内容を評価する。							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション 1. 現代と近代史の関係	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 2 回 ／	2. 冷戦とは何か	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 3 回 ／	3. 孤立国家としての日本	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 4 回 ／	4. アメリカの歴史と宗教	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 5 回 ／	5. 現在のアメリカの政治	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 6 回 ／	6. アメリカと日本の関係	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 7 回 ／	7. 多極化・多文明化する世界	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 8 回 ／	8. 「文明の衝突」説	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 9 回 ／	9. 現代世界と宗教	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 10 回 ／	10. 近代史のなかの日本とアジア①：明治・大正	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 11 回 ／	11. 現代史のなかの日本とアジア②：昭和・平成	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 12 回 ／	12. 近代史のなかの日本と西洋①：明治・大正	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 13 回 ／	13. 現代史のなかの日本と西洋②：昭和・平成	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 14 回 ／	14. 今後の日本と世界①：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 15 回 ／	15. 今後の日本と世界②：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	○	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 人文・社会学分野	西洋史の探究 Research in Western History	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期		
<div> <div>科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）</div> <div> <p>人間は歴史や文化と切り離せない。西洋史の事例を中心に、人間・歴史・文化の関係について学ぶ。</p> <p>1. 異文化、特に西洋文化の多様な側面の理解 2. 歴史的思考力の獲得 3. 西洋の歴史に関する教養を身につけること。</p> </div> </div>									
<div> <div>科目を学ぶことの意義・意味</div> <div> <div> <div>西洋の歴史や文化を学ぶことによって比較する視点を得ることができるので、幅広い、多様なものの見方や考え方を身につけることができるようになる。</div> <div> <div>キーワード</div> <div> 異文化理解 女性史 死の歴史 </div> </div> </div> </div> </div>									
<div> <div>科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）</div> <div> <p>西洋の歴史・文化が、現代を含めて世界に大きな影響を与えてきたことを念頭に置いて授業を受けると良い。</p> </div> </div>									
教 科 書			参考書・リザーブドブック						
書 名： なし 著者名： 出版社：			書 名： なし 著者名： 出版社：						
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	西洋の歴史・文化に関する知識を身につけることができる。					△		
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合 計
評 価 割 合		41		30				29	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験	授業内容が理解できているかどうかを問う学期末試験を行う。毎回提出しなければならない「レポート」（下記参照）への取組みが授業理解の土台となるので、毎回のレポートをしっかりと作成・提出し、試験に臨むこと。								
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト	毎回の授業で、授業内容の理解度を問うレポートをTGU e-Learning で提出してもらう。試験に深く関係するので毎回しっかり取り組むこと。レポートの分量(文字数)と内容も評価対象である。詳細は授業で説明する。								
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用してディスカッション等に取り組んでもらう。参加(出席)状況、投稿内容を評価する。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	オリエンテーション なぜ西洋の歴史を学ぶのか？	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 2 回 ／	1. 女性の歴史 西洋中世の男と女①	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 3 回 ／	西洋中世の男と女②	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 4 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方①	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 5 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方②	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 6 回 ／	日本中世の男と女①	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 7 回 ／	日本中世の男と女②	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 8 回 ／	西洋と日本の比較①	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 9 回 ／	2. 死の歴史 西洋中世の地獄のイメージ①	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 10 回 ／	西洋中世の地獄のイメージ②	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 11 回 ／	煉獄（れんごく）の誕生	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 12 回 ／	西洋中世末の「死の文化」	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 13 回 ／	日本中世の地獄のイメージ	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 14 回 ／	西洋と日本の比較②	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				
第 15 回 ／	歴史を学ぶ楽しさと意味	講義とディスカッション	○	・ 復習の課題：TGU e-Learning「課題」 を使用してレポート提出。	4
	My TGU.net の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 人文・社会学分野	地球の環境 Geosystem Science	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
地球を一つのシステムとしてとらえ、物質・エネルギーの移動を通して地球の環境が形成されていることを理解する。また、地球の姿を数値的に取り扱う方法についても学び、環境変動のタイムスケールについて学ぶ。解析手法として、ボックスモデルに基づいた環境因子解析の手法を解説する。プレートテクトニクスとプリュームテクトニクスの理論に基づき、地球の状態がどのように変化しているかを解説し、これからの地球について考えられるようになることを目的とする。									
科目を学ぶことの意義・意味									
太陽系や地球の成り立ちを理解し説明できる。 地球を一つのシステムとして理解し、物質循環の時間スケールと空間スケールを理解し計算できる。 地球の内部構造について理解し、そこでの物質循環を理解し、説明できる。 地球の物質循環と環境変動との関わりについて説明できる。				キーワード	地球システム プレートテクトニクス プリュームテクトニクス				
科目の学び方指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
地球と宇宙に関する基礎知識を学びながら、地球のこれまでとこれからを考えていきます。 地球上で起きている様々な自然現象に興味・関心を持って欲しいので、ニュースなどで取り上げられた時は、どのようなことが起きているのか、関心を持って理解するよう努めてほしい。授業内でもできるだけ話題にしていきます。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： 地球大進化 第1集～第6集 著者名： NHK「地球大進化」プロジェクト 出版社： 日本放送出版協会					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	様々な自然現象がシステムとしての地球の性質を背景に起きていることを理解し説明できる。							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合 計
評 価 割 合		45		15				40	100
評価方法		評価の実施方法と注意点							
試 験		重要項目についての理解度、応用力を評価。学期末に実施する。各回の授業内容の整理、演習内容の復習を行い、理解しておくこと。							
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト		授業外学修（復習）として、各回の学修内容のまとめを行う。e-Learning システムを使って提出する。提出期間は決められているので注意すること。							
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他		各回の授業内で演習を行う。個別の演習用シートを用いる場合と、e-Learning で提出する場合がある。授業中に指示し、実施するので欠席した場合は、評価できないことがある。							

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ◎:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	イントロダクション ①環境とはなにか ②環境問題とはなにか ③地球の基礎知識	講義、演習	○	復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	2.0
	演習・小レポート				
第 2 回 ／	地球システム（1）－太陽系の形成－ ①太陽系の惑星の特徴	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 3 回 ／	地球システム（2）－地球の形成－ ①太陽系の形成 ②地球の形成史 ③大気の形成	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 4 回 ／	地球システム（3）－ボックスモデル－ ①システムとはなにか ②地球システム	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 5 回 ／	地球システム（4）－サブシステム間の物質移動－ ①ボックスモデル ②流入量と流出量	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 6 回 ／	地球システム（5）－フィードバック－ ①正のフードバック（暴走温室効果、全球凍結） ②負のフィードバック（雲アルベドフィードバック）	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 7 回 ／	地球システムの物質循環－物質循環のタイムスケール－ ①動的平衡状態 ②平均滞留時間 ③地球内部を含んだ物質循環	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 8 回 ／	全地球規模の物質循環（1） ①地球の内部構造 ②地球内部の状態	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 9 回 ／	全地球規模の物質循環（2） －数万年以上のタイムスケールを持つ物質循環－ ①プレート ②プレートの動き	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 10 回 ／	全地球規模の物質循環（3）－大陸移動－ ①プレートの動き ②ブルームと大陸移動	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 11 回 ／	全地球規模の物質循環（4）－大陸移動の証拠－ ①地球の磁場 ②古地磁気学 ③海洋底の地磁気縞状異常	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 12 回 ／	気候変動（1） ①気温の変化と地球のリズム	講義、演習		予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 13 回 ／	気候変動（2） ①長期的な気候変動の状況 ②全地球規模の物質循環と気候変動	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 14 回 ／	気候変動（3）大陸移動と気候変動 ①様々な気候変動の原因	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	1.5 2.0
	演習・小レポート				
第 15 回 ／	地球は特別な星か？	講義、演習	○	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題 学期末試験準備	1.5 2.0 9.0
	演習・小レポート				

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 人文・社会学分野	茶道とホスピタリティ	1 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
（１）裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 （２）日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。									
科目を学ぶことの意義・意味									
茶道の目的はお客様をおもてなしして、共に喜びを感じることです。お茶を通して、相手に喜んでもらいたいという気持ちが芽生えれば、それは相手に対する思いやりや誠意といったホスピタリティにつながっていきます。 初級の資格の許状を申請できます。				キーワード	伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。 学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： 裏千家 茶道 著者名： 学校茶道教本編集委員会 出版社： 今日庵					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	日常生活でのルールやマナーを理解できる。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	感謝の心や物に動じない精神力を育む。							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		50	5	20	20			5	100
評価方法		評価の実施方法と注意点							
試 験		茶道裏千家「盆略点前」を実技試験として実施する。 各回の授業内容の修得に努めること。							
小 テ ス ト		8 回の授業の中で 1 回実施する。							
レ ポ ー ト		茶道の「和敬清寂」の精神の理解を深めるために実施する。 提出期間・様式は決められているので守ること。							
成 果 発 表		実技試験として実施する。							
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他		他の学生に迷惑をかけないなど授業中の態度を考慮する場合がある。							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	茶道とホスピタリティについて総論 学生への注意 ②おじぎ ③立ち居振る舞い	講義 実習		日常生活での実践	4
第2回 ／	基本的な道具の説明 袱紗・茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習		日常生活での実践	4
第3回 ／	客の作法について（茶・菓子） 割稽古 総まとめ ②呈茶	講義 実習		日常生活での実践	4
第4回 ／	レポート課題提出。茶の精神 盆略手前	講義 実習		日常生活での実践	4
第5回 ／	茶の歴史。 茶道の歴史 盆略手前	講義 実習		日常生活での実践	4
第6回 ／	レポート提出、レポート課題の説明。 現代の茶道 盆略手前	講義 実習		日常生活での実践	4
第7回 ／	総まとめ。 茶道のホスピタリティの関係 茶会形式 ②実技試験へのまとめ	講義 実習		日常生活での実践	4
第8回 ／	実技試験	講義 実習		日常生活での実践	4

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）										
科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 基本教養科目	アロマセラピー（癒しの文化） Aromatherapy（Cultures of Healing）	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
アロマセラピーは植物から得られる精油を用いた芳香療法のことでストレスケアに用いられる自然療法の一つです。使用方法としては芳香浴法やトリートメントなどがあり、香りの効果はもちろんタッチケアについても学び、体験していただきます。アロマセラピーを学ぶことで、心も身体も健康で人間関係や自然と調和のとれた生活を目指すものです。										
科目を学ぶことの意義・意味										
かおりの提案が出来る。 日本アロマ環境協会アロマセラピー検定1級合格。				キーワード	アロマセラピー 香り ストレスケア トリートメント					
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）										
この授業では「香り」を楽しむための知識を習得できます。実際に1授業あたり2～3種類の香りを体験していただきます。香りはイメージを思いうかべながら体験すると記憶に残りやすいです。香りを使って行いたいことなどアイデアを思いついたらすぐにメモし、わからないことがあれば教員に相談してください。 授業内容は計画表を参考に予習をして受講ください。										
アロマセラピーの事だけでなく、健康、栄養、環境問題も取り上げます。「公衆衛生学」の理解につながります。										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： なし			書 名： アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級							
著者名：			著者名：							
出版社：			出版社： 世界文化社							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		ベビーアロマに関する知識を習得する。 △							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		クライアントに適したアロマセラピーの選択を行える。 ○							
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンポート等)	合 計
評 価 割 合			80	20						100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験										
小 テ ス ト		小テストを1回行います								
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	アロマセラピーの基礎と利用法	講義		復習 身近なアロマ導入例を調べる	3
	アロマセラピーの定義と基本的な利用法				
第2回 ／	精油の役割と作用	講義		復習 精油原料植物の科ごとの特徴を調べる	3
	精油の役割と効果、精油の種類と作用				
第3回 ／	精油の抽出方法と品質	講義		復習 市販されている精油メーカーを調べる	3
	精油の抽出方法、精油の品質基準と選び方				
第4回 ／	精油と環境の関係、アロマセラピーの安全性	講義		復習 絶滅危惧種の植物について調べる	3
	精油と環境（植物との関係） アロマセラピーの安全性（使用上の注意、禁忌事項）				
第5回 ／	アロマセラピーの歴史（先史時代～近代）	講義		復習 オイルトリートメントについて調べる	3
	古代から中世のアロマセラピーの歴史 近代のアロマセラピーの発展と現代における利用				
第6回 ／	精油の作用メカニズム	講義		復習 嗅覚、脳、皮膚構造の復習	3
	精油が体に与える影響のメカニズム（嗅覚と脳の関係、皮膚吸収）				
第7回 ／	健康学とアロマセラピー	講義		復習 日常に取り入れたいアロマを考える	3
	睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケアへのアプローチ アロマセラピーがどのように健康に貢献するか				
第8回 ／	精油の作用機序（メカニズム）	講義		復習 全範囲	12
	アロマセラピーに関する法律と規制 日本アロマ環境協会の紹介 最新の研究動向				

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）(学修支援計画書)は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	総合教養科目 ウェルネス分野	ライフスタイル論 Lifestyle Theory	1単位	選 択	講 義	1年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
<p>ライフ・スタイルとは、平均寿命が男女ともに80歳を超えている現在、人間が生きていく上で持つといわれる、個人的見解や価値観、行動特性などを指すアドラー心理学の用語です。生活の仕方を意味するライフ・スタイルではなく、どちらかといえば性格や性質に近い意味で使われます。また、アルフレッド・アドラーは、人間は幼少期にライフ・スタイルの「原型」を身に着け、大人になるにしたがってライフ・スタイルを「成熟」させるのだと説きます。ライフ・スタイルは、「自分がどんな人間であるか抱くセルフイメージ（自己概念）」「他者を含む世界の現状への認知（世界像）」「自己概念と世界像に対する理想のイメージ理想（自己理想）」を包括したものとされ、環境や遺伝、家族構成などによってつくられているということを中心に学びます。さらにライフタスク（人生の課題）として「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」についても学びます。さらに付け加えると、ライフスタイルは自己や世界への認知ゆえに、自分でいかようにも決定することも考えることも可能であることを学ぶ。</p>										
科目を学ぶことの意義・意味										
ライフスタイル論は、あらゆる人生の課題は対人関係に集約されることを中心に学びます。 またアドラー心理学に基づき、ライフタスク（人生の課題）としてテーマを3つに分類し学ぶ。 「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」であり、良き人生観を培う。 現在はアドラー心理学にさらに2つのタスクが加わることも学び、人生の指標も考える。				キーワード	アドラー心理学 哲学					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
<p>ライフスタイル論はライフタスクから「ビジネスの課題」とは、労働を基軸に他者と関わることであり、「交友関係（共生）の課題」とは仕事から離れた対人関係を考えます。そして「愛の課題」からは、配偶者や恋愛対象との関係性や親子・兄弟姉妹といった家族の関係性を考えます。これらの3つの課題は、時間が経つほど解決が難しくなるとアドラーが指摘したように、これらの課題はすべてが対人関係の課題であると考えます。対人関係に悩みが生じる時は、必ずライフタスクのテーマに関連する対人関係の課題に直面しているのです。それゆえに講義を受けるにあたり、できる限り人生観を考える哲学や心理学全般を学び知ることが重要である。</p> <p>ライフスタイルは自己や世界への認知ゆえに、自分でいかようにも決定することも考えることも可能である。ゆえに講義に人生観を考える哲学や心理学全般を学び知ることが重要である。</p>										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： なし			書 名： アドラー心理学入門							
著者名：			著者名： 岸見一郎							
出版社：			出版社： ベストセラーズ							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			59						41	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		人間の心理を含めた対人関係を様々な理論・学説・事例研究などを通じて人間の心の動きが理解できているか、また人間心理を分析することができるかを問う。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト										
成 果 発 表										
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		各回の授業内で演習を行う。個別の振り返りシートを用いる場合と、コメント用シートに記載する場合がある。 授業中に指示し、実施するので欠席した場合は、評価は基本できない。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	ガイダンス（授業の概要と成績について）	講義形式		ライフスタイルとは？調べておく	3
第2回 ／	アドラー心理学の理論と概念	講義形式		アルフレッド・アドラーについて調べておく	6
第3回 ／	アドラー心理学の重要な概念・・・ライフスタイル	講義形式		前回の復習	3
第4回 ／	早期回想・・・ライフスタイル	講義形式		前回の復習	6
第5回 ／	「自己概念」「世界像」「自己理想」について	講義形式		前回の復習	3
第6回 ／	ライフタスク（人生の課題）とは	講義形式		前回の復習	3
第7回 ／	ライフタスク（人生の課題）とは	講義形式		前回の復習	3
第8回 ／	確認考査（まとめ）	講義形式		前回の復習	6

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
	総合教養科目 ウェルネス分野	リラクゼーション論 Relaxation	1単位	選 択	講 義	2年次	春学期
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）							
<p>現代社会では自然災害や事故、事件が日常的に勃発し、安全や平和といった人々が長年守られてきたと感じていた日常生活の感覚や保証もが覆されている。直接に被害がなくても、情報社会においては避けられないストレスに日々さらされて過ごしており、心身を健康に保つことがいかに大変かという課題に直面している。本授業を受講することにより、家族や仕事、友人関係やクライアントなどの対人関係、個人の素質といった要因だけでないものからも受けうるストレスに対するマネジメントができるようになる。（授業内容は状況により若干変更の可能性あり。）</p>							
科目を学ぶことの意義・意味							
身体の恒常性（ホメオスタシス）を学び、リラクゼーションの種類や活用方法を知り、使えるようになる。				キーワード	行動療法、植物療法からのリラクゼーション技法を学ぶ		
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）							
<p>実習で呼吸法やタッチングなどリラクゼーション技法を体験するので積極的に参加することが求められる。</p> <p>アロマテラピーを軸とする植物療法を行う。アロマテラピーの基礎知識があることが望ましい</p>							
教 科 書			参考書・リザーブドブック				
書 名： 自己モニタリングと呼吸法 角井 都美子・三羽理一郎 著者名： 出版社： メディカ出版			書 名： 子供の「脳」は肌にある 著者名： 山口 創 出版社： 光文社 書 名： からだの無意識の治癒力 著者名： 山口 創 出版社： さくら舎 書 名： いちばん詳しくて、わかりやすい！ アロマテラピーの教科書 著者名： 和田 文緒 出版社： 新星出版社				

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		50		10	30			10	100

評価方法	評価の実施方法と注意点
試 験	授業で学んだリラクゼーション法について理解しているかどうか。 体感として得たものが知識と結びついているか。 客観的に状況判断をすることができるか。
小 テ ス ト	
レ ポ ー ト	リラクゼーションの実践を継続し、試験までに体感を集計した表を提出する。
成 果 発 表	質問に対する積極的な回答を期待します。
作 品	
ポートフォリオ	
そ の 他	毎回授業の終わりに、簡単なコメントシートを提出してもらいます。 授業内容や資料に関する質問や感想などにどれだけ興味を持ち、向き合っているかをみます。

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ◎:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	リラクゼーション法とは？	座学、実習		なぜリラクゼーションが必要とされるのか、理解を深める。 授業の復習。	4
	健康と病気について。現代社会が抱える問題。				
第2回 ／	ストレスと身体の恒常性（ホメオスタシス）	座学、実習		授業の復習。 解剖生理学的に体に起こる反応を抑える。	4
	ハンス・セリエの一般適応症候群を自律神経系、内分泌系から学ぶ。				
第3回 ／	認知行動療法	座学、実習		授業の復習。	4
	さまざまな認知行動療法を知る				
第4回 ／	香りのマインドフルネス	座学、実習		香りのマインドフルネスの反復練習。	4
	呼吸の仕組み、嗅覚の仕組みを学ぶ。呼吸法を深める。				
第5回 ／	植物療法のリラクゼーション	座学、実習		ホリスティックの意味を理解し、ストレス対処法の理解と実践をする。 （可能であれば）植物観察をする、アロマセラピーの実践など	4
	ホリスティックとは？人と自然の関わりや全体像から物事を捉えることの意味。				
第6回 ／	タッチングとリラクゼーション	ビデオ鑑賞 座学、実習		皮膚を通した、タッチングの効果を知る。 セルフマッサージをする。	4
	NHK ヒューマニエンス「皮膚は0番目の脳」を観て感想を述べる。				
第7回 ／	実習	座学、実習		家族、知人などにリラクゼーションを実践する。	4
	触覚について理解を深める実習を行う。				
第8回 ／	まとめと振り返り	座学、実習		トレーニングを続けてデータを集計する。	4
	嗅覚を利用した呼吸法、タッチングからのリラクゼーションの実践。				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	専門教育科目 ウェルネス領域	ナチュラルビューティ論 Natural Beauty Theory	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
心も体も美しく。ありのままの自分を輝かせ自分らしく生きる。									
科目を学ぶことの意義・意味									
唯一無二の存在である自分の魅力に気づき、自分を生かす。自己肯定感を高め、自分を好きになる。					キーワード	自分の知らない自分に出会う。自分の可能性は無限大。			
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）									
他人とは違う自分の特徴を知り受け入れる。行動に移す。 リラックスして五感全てを研ぎ澄ます。心で感じる。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		50	10	20				20	100
評価方法		評価の実施方法と注意点							
試 験		最終日に知識を確認する為の試験を実施します。							
小 テ ス ト		適宜小テストを行います。							
レ ポ ー ト		適宜感想レポートを書いて頂きます。							
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他		授業内で簡単な課題を出します。							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	色で自己紹介 カラーセラピーワーク「ジョハリの窓」	座学、実習		感想を書き留める。	4
第2回 ／	色彩の基礎 パーソナルカラーとは①	座学、実習		色彩の基礎について学んだ事の復習。	4
第3回 ／	パーソナルカラーとは②	座学、実習、小テスト		パーソナルカラーについて学んだ事の復習。	4
第4回 ／	パーソナルラインとは	座学、実習		パーソナルラインについて学んだ事の復習。	4
第5回 ／	誕生数秘学①	座学、実習、小テスト		感想を書き留める。	4
第6回 ／	ネガティブの手放しとイメージトレーニング	座学、実習		感想を書き留める。	4
	呼吸法				
第7回 ／	血液型と食	座学、実習、感想レポート		学んだ事を普段の生活の中で意識する。	4
第8回 ／	腸活、めぐりの良い体、スキンケア まとめ 感想	座学、実習		学んだ事を普段の生活の中で意識する。 全講座を振り返り、気づいた事を書き留める。	4

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。
学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	専門教育科目 ウェルネス領域	メイク・スキンケア論 Theory of Makeup and Skincare	1 単位	選 択	講 義	3 年次	秋学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
メイクアップには、美しく彩ったり、華やかに装う効果の他、気分を高揚させたり、自己肯定感を高めたり、リラックスさせるなどの心理的効果があることが知られています。その内容を深く知り、自分や他者をいたわる気持ち、幸福感を高める知識となる為の講座です。									
科目を学ぶことの意義・意味									
自己や他者をいたわる気持ち、幸福感を高める。				キーワード	自己、他者を癒し幸福感を高める				
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）									
メイクアップは外見を補正や修正するものではなく、その人らしい魅力を確認し、より魅力的な表情に見せる行為です。メイクは土台となるスキンケアから始まります。お肌の調子＝心身の状態 この授業を通して、自身の顔と他者の顔と、楽しくたわり、幸福感を高め合っていくことを目標とします。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感，責任感，倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し，教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		50		10				40	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験	肌をいたわる毎日のスキンケアを理解しているか。								
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト	積極的に取り組んでいるか。 期限内に提出できているか。								
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他	毎回の授業に積極的に参加しているか。 クラスメイトと協力して授業に取り組んでいるか。 やむを得ない理由無く、忘れものや遅刻、欠席などしていないか。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	自己紹介、授業の目的、スキンケアとは？スキンケアの種類	講義・実践		自身のスキンケアを見直す	4
	授業の目的を理解する。自身のスキンケアを見直す				
第2回 ／	皮膚基礎理論 ターンオーバーについて	講義・実践		自身のスキンケアを見直す	4
	ターンオーバーを正しく理解し、自身に合ったスキンケア商品を考える				
第3回 ／	皮脂膜の働きと正しい化粧水&乳液の選び方	講義・実践		自身のスキンケアを見直す 家族や知人の肌やスキンケア商品に興味を持つ	4
	健康的な皮脂膜の重要性を理解し、整えるスキンケアを学ぶ				
第4回 ／	毛穴の働き	講義・実践		自身のスキンケアを見直す 家族や知人の肌やスキンケア商品に興味を持つ	4
	毛穴の働きやトラブルの原因を理解し、肌別スキンケアやベースメイク方法を考える				
第5回 ／	角質層の働き	講義・実践		自身のスキンケアを見直す ネット情報や販売商品に興味を持つ	4
	角質層の働きを学び、保湿への対応方法を理解				
第6回 ／	敏感肌	講義・実践		自身のスキンケアを見直す ネット情報や販売商品に興味を持つ	4
	敏感肌やアレルギー肌に合ったメイク用品の知識を学ぶ				
第7回 ／	表情筋について	講義・実践		自身のスキンケアを見直す ネット情報や販売商品に興味を持つ	4
	表情をつくる構造を学び、明るい表情に導く眉メイクを学ぶ				
第8回 ／	弾力について	講義・実践		自身のスキンケアを見直す ネット情報や販売商品に興味を持つ	4
	シワやたるみの原因と、対応するメイク法				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	専門教育科目 ウェルネス領域	メイクと心(メイクがもたらす様々な効用について) About The Various Benefits of Makeup	1 単位	選 択	講 義	3 年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
メイクアップには、美しく彩ったり、華やかに装う効果の他、気分を高揚させたり、自己肯定感を高めたり、リラックスさせるなどの心理的効果があることが知られています。その内容を深く知り、自分や他者の幸福感を高めたり自信づけたりするツールとして使えるようになる為の講座です。									
科目を学ぶことの意義・意味									
メイクアップを通して自己も他者も、それぞれの魅力に気づき認めることができる。				キーワード	自分（その人）らしく、ポジティブな気持ちになるメイク				
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）									
メイクアップは外見を補正や修正するものではなく、その人らしい魅力を確認し、より魅力的な表情に見せるアイテムです。魅力的な表情は、本人も周りもポジティブな気持ちになります。この授業を通して、自身の顔とも、他者の顔とも、楽しく向き合い、認め合えていくことを目標とします。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合		50		10				40	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験	テーマに沿ったメイクやカウンセリングができているか。 周りへの気遣い、協力し合った行動ができているか。								
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト	期限を守り、テーマに沿った内容の提出物ができているか。								
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他	毎回の授業に積極的に参加しているか。 クラスメイトと協力して授業に取り組んでいるか。 やむを得ない理由無く、忘れものや遅刻、欠席などしていないか。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	自己紹介、授業の目的、メイクの力、メイクカラーについて①	講義・実践		自身のメイクやメイク道具を見直す	4
	授業の目的を理解する				
第 2 回 ／	メイクカラーについて②	講義・実践		自身のメイクやメイク道具を見直す	4
	色による魅力や似合うがあることを理解する				
第 3 回 ／	顔分析① バランスによる印象の違いと効果的なメイク法	講義・実践		自身のメイクやメイク道具を見直す	4
	バランスによる魅力や似合うがあることを理解する				
第 4 回 ／	顔分析② バランスによる印象の違いと効果的なメイク法	講義・実践		自身のメイクやメイク道具を見直す	4
	バランスによる魅力や似合うがあることを理解する				
第 5 回 ／	顔分析③ 曲線や直線による印象の違いと効果的なメイク法	講義・実践		自身や他者のメイクやメイク道具の確認	4
	骨格やパーツの形による魅力や似合うがあることを理解する				
第 6 回 ／	質感によるイメージの違いと効果的なメイク法	講義・実践		自身や他者のメイクやメイク道具の確認	4
	質感による魅力や似合うがあることを理解する				
第 7 回 ／	見られたい印象に近づけるメイク法①	講義・実践		自身や他者のメイクやメイク道具の確認	4
	自分の顔の魅力を理解し、見られたい印象に効果的に近づけるメイク法				
第 8 回 ／	見られたい印象に近づけるメイク法②	講義・実践		自身や他者のメイクやメイク道具の確認	4
	自分の顔の魅力を理解し、見られたい印象に効果的に近づけるメイク法				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	専門教育科目 ウェルネス分野	ファッションと心 Fashion and heart	1 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
時代の変化は、人の気持ちの変化と共にファッションの流行や色にも表れる。 ファッションと心と色の繋がりを知り、自分のファッションの好き嫌いの傾向や色彩を通して自分自身の魅力や強みなどの「自分らしさ」「魅力と魅せ方」について探求すること。										
科目を学ぶことの意義・意味										
自信を持って就職活動ができる。				キーワード	自分らしさを知る。					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
ファッションを通じて自己探求に繋がる内容を意識している。 自ら気づいてゆけるような声かけや、意欲的になれるような励ましなどを通して、自信を持って行動できるよう、安心して学べる環境作りに留意する。 色彩検定テキスト（ファッション）と関連する。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名： 199a カラーカード 著者名： 出版社：				学生自身で好きなファッション雑誌 1～2 冊を準備						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		ファッションの流行は色と心に関わることを知り、時代の代表色をカラーカードで切り貼りする（ワーク）					○		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		色の基礎知識を学び、カラーコーディネートの基本を知り活用できること					○		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		エレガント、ロマンティック、カジュアルなどＴＰＯに応じたイメージスタイルがあることを知る					○		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		自分の夢や希望を探求するためにコラージュを作成し、発表する（ワーク）					○		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		パーソナルカラー診断 知識と実践 自分が似合う色のシーズンを知り活用できること					○		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		色彩心理を使って、自分なりの活用方法を考え活用できること					○		
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50	11	11	14	14			100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		戦後～ファッションの変遷と流行色の関係、TP0 に合わせたファッションスタイルが理解できているか等。								
小 テ ス ト		パーソナルカラー（カラーカードワークを含む）								
レ ポ ー ト		最終回に授業で学んだことに関するレポートを提出していただきます。								
成 果 発 表		積極的に学ぶ意欲が感じられるか。（カラーカードのワークを含む）								
作 品		コラージュによる成果物								
ポートフォリオ										
そ の 他										

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	ファッションの変遷と流行色①	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第2回 ／	ファッションの変遷と流行色②	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第3回 ／	ファッションのイメージスタイル／カラーコーディネート	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第4回 ／	ファッションとビジョンボード（コラージュ作成）	座学、実習（持参物：雑誌）	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第5回 ／	パーソナルカラー診断	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第6回 ／	色彩心理・色のイメージを知る・自分の印象を知る	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第7回 ／	就活に生かせる色の使い方	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4
第8回 ／	正しいスキンケアとナチュラルメイク	座学、実習	○	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	4

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	専門教育科目 ウェルネス分野	アロマと心 Aromatherapy and heart	1 単位	選 択	講 義	2 年次	秋学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
芳香植物が何千年も人々の生活に使われてきた理由を理解し、アロマセラピーの基礎知識と精油が人の心に及ぼす影響を学ぶ。										
感覚器官としての嗅覚の研究は遅れていたが、2004 年にカナダのリンダ・ベックとリチャード・アクセル両博士の嗅覚受容体（センサー）の発見でノーベル賞を受賞してから、一気にその仕組みが解明されてきた。そして新型コロナウイルスに感染したまさに、何十万人が、突然嗅覚に変調をきたしたので人々が嗅覚に注目し始めた。嗅覚の変調は多くの健康状態のバイオマーカーであり（医学的な状態を測定できる客観的な指標）、まだ良く知られていないが非常に簡単な嗅覚検査で一種の予防的なスクリーニング・ツール（疾患の疑いのある人を発見する検査）として役立つ分野でもある。初期の認知機能障害や広い意味での脳の老化機能を見ることもできる。今後、健康診断に嗅覚検査が取り入れられる可能性もあるかもしれない。この科目ではそういった嗅覚が心や身体に及ぼす影響や関係について知り、自ら気づきを得られるようにする。										
科目を学ぶことの意義・意味										
香りが人間に与える影響、特にここに働く基礎的なしくみを知る。呼吸法などの実践があるので前期リラクゼーション論を受講していることが望ましい。				キーワード	一滴の精油のもつ力はとてもパワフル。その力を引き出し心に活用する。					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
香りを使った実習に積極的に参加し感じたことを発表してもらう。										
自分の五感の中の、特に、嗅覚と触覚を意識し、感覚を開いていくよう学生に働きかける。										
コンセプトにも述べたがコロナ後に本格化した本場アメリカの最新のアロマサイコロジー研究の情報も紹介しながら今学期は授業をすすめる。										
教 科 書			参考書・リザーブドブック							
書 名： いちばん詳しくて、わかりやすい！ アロマセラピーの教科書 著者名： 和田 文緒 出版社： 新星出版社			書 名： なし 著者名： 出版社：							
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			50	10		30			10	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		授業で伝えた知識とテキストの内容とがきちんとリンクしているか 言葉の選び方 精油についての知識が身についたかどうか								
小 テ ス ト		1 5 回目の授業で、テキスト、資料持ち込みで行い、全体を見直す。								
レ ポ ー ト										
成 果 発 表		質問に対する積極的な回答を期待します。								
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		毎回授業の最後にコメントシートを書いてもらいます。 自分の身体の変化に気づくことができたか、授業内容にどれだけ興味や関心を持っているかをみます。								

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ◯:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	芳香植物について学ぶ 精油を体験する	座学、実習		植物がどうして香り成分を作るのか、調べる	4
	ラベンダー精油のかぎわけ				
第 2 回 ／	精油の薬理作用を知る	座学、実習		4 系統 6 種類のラベンダーについて書かれた論文を読み、精油を作る植物の背景に思いをめぐらせる	4
	ラベンダー精油の抗不安作用についての論文ポイントの理解				
第 3 回 ／	精油を知る 精油の基礎知識 I	座学、実習		IH による水蒸気蒸留の実験を実施	4
	精油の特徴と使い方を理解する				
第 4 回 ／	精油を知る 精油の基礎知識 II	座学、実習		精油の学名（二名法）を調べる	4
	精油の芳香成分について				
第 5 回 ／	精油の成分が体に働く経路を知る① 嗅覚と大脳辺縁系のしくみを学ぶ	座学、実習 DVD 鑑賞あり		ビデオ視聴の感想	4
	NHK ヒューマニエンス “嗅覚は生命のバロメーター” を観る				
第 6 回 ／	精油の成分が体に働く経路を知る② 精油の代謝経路を学ぶ	座学、実習		吸入法、嗅覚法などの実践	4
	さまざまな香りを嗅ぎ、日常生活で取り入れる方法を知る				
第 7 回 ／	アロマセラピーの歴史① 植物療法の基礎を学ぶ	座学、実習		自宅で香りを使ったセルフヒーリングを試してみる	4
	芳香植物と人間の関わりについての長い歴史				
第 8 回 ／	アロマセラピーの歴史② 代替医療としてのアロマセラピーを学ぶ	座学、実習		自宅で香りを使ったセルフヒーリングを試してみる	4
	植物の機能性成分としての香りが薬になるまで				

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	専門教育科目 ウェルネス領域	色彩と心	1 単位	選 択	講 義	4 年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
色彩はいつも私たちのそばにあり、私たちは知らずに色の影響を受けている。色彩が心に与える影響を学び、実生活で活用する。									
科目を学ぶことの意義・意味									
色の基礎知識を身につけ、心が受ける影響を理論的に理解する。				キーワード	パワフルな力を持つ色を自由自在に使いこなす。				
科目の学び方（教員の姿勢・持ち味）									
色を感じる。色を楽しむ。 五感の中で多くを占める視覚、その中でも最も影響を与える「色」を日常から意識する。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： 新配色カード 199a 著者名： 出版社： 日本色研事業株式会社				書 名： 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コラトシート等)	合 計
評 価 割 合		50	10	20				20	100
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験	最終日に知識を確認するためのテストを行います。								
小 テ ス ト	適宜確認のための小テストを行います。								
レ ポ ー ト	適宜レポートを書いて頂きます。								
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他	カラーカードを使ったワークをします。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	はじめに 自己紹介 色のはたらき	座学、実習		内容の復習	4
第 2 回 ／	色彩の基礎①	座学、実習		色の三属性の復習。	4
	色はなぜ見えるのか、色の三属性の理解				
第 3 回 ／	色彩の基礎②	座学、実習、小テスト		トーンのしくみ、配色の復習。	4
	トーンのしくみの理解 配色基礎				
第 4 回 ／	色の心理効果①	座学、実習		色の心理効果の復習。	4
第 5 回 ／	色の視覚効果①	座学、実習、小テスト		色の視覚効果の復習。	4
第 6 回 ／	色彩アートセラピー①	座学、実習		感想を書き留める。	4
第 7 回 ／	色彩アートセラピー②	座学、実習、小テスト		色の視覚効果の復習。	4
第 8 回 ／	色彩アートセラピー③ まとめと振り返り 感想	座学、実習		全講座を振りかえり、気づいた事を書き留める。	4

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。
学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期			
	専門教育科目 ウェルネス分野	ストレス・マネジメント Stress management	1 単位	選 択	講 義	4 年次	春学期			
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）										
ストレス社会と言われる現代、心身の健康のためにストレスを理解しストレス・マネジメントなどの対策を行うことが重要である。 ストレス・マネジメントとはストレスとの上手な付き合い方を考え、適切な対処をすることであるが、大学においては理論だけでなく実践実習で身に着けることも大事である。そのため、積極的な授業参加でストレス・マネジメントを学習されることを望む。										
科目を学ぶことの意義・意味										
ストレス理論は、医学と心理学に共通する理論であり、現在も多くの精神的症状や身体的疾患とストレスの関係及びその対処法が研究されている。 本授業ではその基礎的理論を理解し、基本的な対処法を学んでいただく。				キーワード	ストレス コーピング メンタルヘルス					
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）										
日常生活に関わる新しい学問領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究におけるストレス・マネジメントの最新知識を真摯に学ぶことが求められる。 健康心理学、臨床心理学、発達心理学、カウンセリング実務論、人間関係論 など										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名： 別冊 ストレスと脳の取扱説明書 著者名： ムック 出版社： ニュートンプレス				書 名： 脳神経外科医が教える 頭と体からアプローチするストレスマネジメント 著者名： 古賀 久伸 出版社： 幻冬舎						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		子どものストレスについて学び、実際現場におけるマネジメント能力を養う							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		発達についての最新知識を学び、身に着ける							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どものストレスマネジメントについて学ぶ							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
達 成 度 評 価										
評 価 方 法			試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合			45		20	20			15	100
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試 験		期末に実施する。								
小 テ ス ト										
レ ポ ー ト		随時課題を出しレポート提出を求める。								
成 果 発 表		プレゼンテーション力を養う。								
作 品										
ポートフォリオ										
そ の 他		随時、授業の感想コメントを提出する。								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回 ／	オリエンテーション ストレスマネジメントとは	講 義		ストレス、コーピング、マネジメントについて持っている知識や経験から次時の自己の学習課題を整理する。	4
第2回 ／	ストレスとは ストレッサーとストレス反応	講 義 演 習		授業の感想を提出	4
第3回 ／	良いストレッサー、良くないストレッサー あなたのストレス反応	講 義 演 習		同 上	4
第4回 ／	気分と体の変化 コーピング	講 義 演 習		同 上	4
第5回 ／	リラクセーション・トレーニング	講 義 演 習		同 上	4
第6回 ／	ストレス理論 セリエとラザルスのストレス理論	講 義		同 上	4
第7回 ／	ストレス反応の基盤にある生体システム	講 義		レポート作成	4
第8回 ／	ストレスの測定 心理尺度と生体指標	講 義 演 習		授業の感想を提出	4

※2 能動的学修…「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 キャリア形成分野	アセンブリ・アワー Assembly Hour	4 単位	選 択	講 義	1 年次・ 2 年次	春学期・ 秋学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
<p>【1 年次】</p> <p>一年間を通して、高校生活から大学生活への円滑な移行を行う。</p> <p>学生一人ひとりが大学で学ぶ意味を知り、目標を持ち、学ぶことに挑戦するモチベーションを高め、学生生活を主体的に取り組むことができる。</p> <p>自身の学生生活および大学での学びについて振り返り、成長につなげる。</p> <p>【2 年次】</p> <p>進路選択をふまえ、学生生活の充実を目指す。</p> <p>学生生活において、主体的な取り組み（体験活動）を実践し、自身が取り組んだ活動について振り返り、成長を実感することができる。</p> <p>進路選択について考え、就職活動への動機づけを行う。</p>									
科目を学ぶことの意義・意味									
<p>【1 年次】</p> <p>・学部・学科の教育目的を理解し、自身が大学で学ぶ意味、自らの学修目標を明確にすることができる。</p> <p>・大学で学ぶための基礎的スキルや、大学生活に必要な礼儀・マナーを理解して、行動することができる。</p> <p>・自身の学生生活および大学での学びを振り返り、成長することができる</p> <p>【2 年次】</p> <p>・進路選択を踏まえ、身につける資質・能力を想定することができる。</p> <p>・自身が定めた課題に主体的に取り組み、その取り組みを振り返ることで成長することができる。</p> <p>・活動を円滑に行うために必要な人間関係を構築することができる。</p>					キーワード	大学での学び、高大接続、学生生活のスキル、 主体性、進路選択、人間関係			
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
<p>大学生活に必要なスキル、将来の進路選択に必要な知識・スキル、社会で活動するために必要なスキル等を身に付ける。</p> <p>欠席した回の内容については、必ず担当アドバイザーに確認をすること。</p>									
<p>全ての科目の学修に必要な基礎的スキルを身に付ける。</p>									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： 大学生 学びのハンドブック				書 名： 資料を適宜配付する。					
著者名： 世界思想社編集部				著者名：					
出版社： 思想社				出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	礼儀やマナーの必要性を理解して行動することができる。					○		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	学びの基礎となるスキル身に付け、活用することができる。					◎		
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験									
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト	以下 2 点の評価方法による総合評価とする。 レポートによる評価：オムニバス方式の毎回の講義について十分に理解したうえで、自分の考えを整理し、決められたテーマに沿って、自分の意見を適切に記述しているかを評価する。 成果物による評価：学修の内容を理解し、今後に向けて学びを活かしていこうとしているかを成果物で評価をする。								
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第1回	【1 年次】 （春学期） 大学での学び方（1）卒業に向けて必要なことを知る （秋学期） 学科別プログラム（1）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる①	講義法		資料の収集と整理	15
	【2 年次】 （春学期） オリエンテーション ・アセンブリ・アワーについて ・履修指導 ・2024 年度以降の授業・成績評価等の取扱いについて （秋学期） オリエンテーション ・秋学期のアセンブリ・アワーについて ・秋学期履修指導				
／	振り返りシートの点検と観察				
第2回	【1 年次】 （春学期） 学生生活について（1）キャンパスマナーを理解し、守る （秋学期） 学科別プログラム（2）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる②	講義法		資料の収集と整理	15
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（1）「スタートアップセミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（7）「履歴書・エントリーシート作成セミナー①」（自己分析・自己 PR）				
／	振り返りシートの点検と観察				
第3回	【1 年次】 （春学期） 学生生活について（2）交流を深める（※） （秋学期） 学科別プログラム（3）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる③	講義法 ※実技含む		資料の収集と整理	15
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（2）「インターンシップ説明会」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（8）「履歴書・エントリーシート作成セミナー②」（志望動機・学チカ・まとめ）				
／	振り返りシートの点検と観察				
第4回	【1 年次】 （春学期） 大学で学ぶ意味を考える（1）PROG テストの解説 （秋学期） 学科別プログラム（4）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる④	講義法		資料の収集と整理	15
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（3）「社会人基礎力・ジェネリックスキル育成セミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（9）「業界・業種研究セミナー」				
／	振り返りシートの点検と観察				
第5回	【1 年次】 （春学期） 大学での学び方（2）授業の受け方（ノートの取り方） （秋学期） 学科別プログラム（5）学科の学びについて知り、学ぶ意味の理解、学ぶ目標の設定、学びのモチベーションを高めることにつなげる⑤	講義法		資料の収集と整理	15
	【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（4）「社会人としてのビジネスマナーセミナー」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（10）「先輩からのメッセージ」				
／	振り返りシートの点検と観察				

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第6回 ／	【1 年次】 （春学期） 大学で学ぶ意味を考える（2）学ぶ意味、学ぶ目標を考える （秋学期） 学内プログラムについて 大学で設定されているプログラムや活動、資格、免許等について紹介し、学びのモチベーションを高めることにつなげる 【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（5）「面接対策セミナー」 （秋学期） ゼミに関するガイダンス ・基礎ゼミⅠ・Ⅱガイダンス ・研究室訪問について	講義法		資料の収集と整理	15
	振り返りシートの点検と観察				
第7回 ／	【1 年次】 （春学期） 大学での学び方（3） 課題（レポート）の作成、図書館の使い方、研究倫理について （秋学期） 就職サポートセミナー「社会人になるまでの大学生活の過ごし方」セミナー 【2 年次】 （春学期） 社会・キャリアを知る（6）「金融教育について」 （秋学期） 社会・キャリアを知る（11）「職務適性テスト」	講義法		資料の収集と整理	15
	振り返りシートの点検と観察				
第8回 ／	【1 年次】 （春学期） 大学で学ぶ意味を考える（3）いつ、何をするか考える（グループワーク） （秋学期） 大学で学ぶ意味、目標を確認する 学生生活を充実させるための4年間の過ごし方を考える 【2 年次】 （春学期） まとめ ・研究倫理に関する事項 ・春学期期末試験に向けての確認など （秋学期） まとめ ・2年次の振り返り ・基礎ゼミⅠ・Ⅱについて ・3年次に向けて	講義法		資料の収集と整理	15

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 キャリア形成分野 学外実習	ボランティア実習 Volunteer Training	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。									
科目を学ぶことの意義・意味									
ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。 社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。				キーワード	ボランティア				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
ボランティア活動に参加する。安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持って活動に参加し、責任をもってやり遂げること。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	責任を持ってやり遂げることができる。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	さまざまな問題に対し、解決方法を考えて取り組むことができる。							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験									
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト									
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	事前指導（オリエンテーション）			実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	2
第 2 回 ／	実習（1）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 3 回 ／	実習（2）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 4 回 ／	実習（3）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 5 回 ／	実習（4）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 6 回 ／	実習（5）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 7 回 ／	実習（6）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 8 回 ／	実習（7）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 9 回 ／	実習（8）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 10 回 ／	実習（9）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 11 回 ／	実習（10）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 12 回 ／	実習（11）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 13 回 ／	実習（12）（実習先での活動）	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 14 回 ／	実習（13）（実習先での活動） 総実習時間：45 時間	実習		日々の記録（活動日誌）作成	2
	活動日誌				
第 15 回 ／	事後指導			事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	2

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 キャリア形成分野 学外実習	インターンシップ（学校） Internship（School）	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
学校現場での就業体験により、卒業後を見据えた将来像をより明確にすることができる。									
科目を学ぶことの意義・意味									
教育現場の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 教育現場で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。				キーワード	就業体験 学校				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
高等学校・中学校・小学校・幼稚園・保育所等での就業体験を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、教育する側に立っているという自覚をもって参加すること。 実習先の特性をよく理解しておくこと。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験									
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト									
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。				
第 2 回 ／					
第 3 回 ／					
第 4 回 ／					
第 5 回 ／					
第 6 回 ／					
第 7 回 ／					
第 8 回 ／					
第 9 回 ／					
第 10 回 ／					
第 11 回 ／					
第 12 回 ／					
第 13 回 ／					
第 14 回 ／					
第 15 回 ／					

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 キャリア形成分野 学外実習	インターンシップ（企業） Internship（Business Enterprise）	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
企業等での就業体験を行い、明確な職業意識と倫理観をもった職業人の育成と学外を含めた幅広い人間関係の醸成を図る。									
科目を学ぶことの意義・意味									
企業等の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。				キーワード	就業体験 企業				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
企業での就業体験に参加する。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、自覚をもって参加すること。 実習先の特性をよく理解しておくこと。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①									
②									
③									
④									
⑤									
⑥									
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験									
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト									
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。				
第 2 回 ／					
第 3 回 ／					
第 4 回 ／					
第 5 回 ／					
第 6 回 ／					
第 7 回 ／					
第 8 回 ／					
第 9 回 ／					
第 10 回 ／					
第 11 回 ／					
第 12 回 ／					
第 13 回 ／					
第 14 回 ／					
第 15 回 ／					

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

科目ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
	総合教養科目 キャリア形成分野 学外実習	インターンシップ（コーオブ） Internship（Part-time Job）	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期		
科目のコンセプト（科目の主旨及び目的）									
自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。									
科目を学ぶことの意義・意味									
自己の将来を見据えた職業選択ができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。				キーワード	就業体験 コーオブ				
科目の指導方針（教員の姿勢・持ち味）									
自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、就労に対する対価を受け取っているという自覚をもって参加すること。 実習先の特性をよく理解しておくこと。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名： なし 著者名： 出版社：				書 名： なし 著者名： 出版社：					
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。							
達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
評 価 割 合									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試 験									
小 テ ス ト									
レ ポ ー ト									
成 果 発 表									
作 品									
ポートフォリオ									
そ の 他									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	能動的学修 ※2	準備学修（予習・復習等）の具体的内容 及びそれに必要な時間（時間）	
				準備学修（予習・復習等）の具体的内容	時間※3
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。				
第 2 回 ／					
第 3 回 ／					
第 4 回 ／					
第 5 回 ／					
第 6 回 ／					
第 7 回 ／					
第 8 回 ／					
第 9 回 ／					
第 10 回 ／					
第 11 回 ／					
第 12 回 ／					
第 13 回 ／					
第 14 回 ／					
第 15 回 ／					

※2 能動的学修・・・「授業の運営方法」において能動的学修（アクティブ・ラーニング）により実施する場合、該当授業回に○を記載してください。

※3 準備学修(予習・復習等)に必要な時間の記載は、その合計が「講義科目」は30時間/単位、「演習科目」は15時間/単位を超える時間数を「分」ではなく「時間」で記載してください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）は、原則記載の計画通り実施してください。